

<p>4. バングラデシュの貧しい部分と豊かな部分について話し合う。</p>	<p>○ 写真のどんなところから感じるのか、理由も述べさせる。</p> <p>【児童の反応】</p> <p>C: 暑いからかも知れないけど上着を着ていない人が多いから貧しい感じがする。</p> <p>C: 児童の机が長机で、床がコンクリートなので、貧しいと思う</p> <p>C: 田植えは手でやっているの、機械がないのかな。</p> <p>C: 町では高級車が走っているから、お金持ちの人もいて、その人達は豊かだと思う。</p> <p>C: たくさんのジュートを浸けているから、そういう資源は豊かだと思います。</p>
--	--

【児童の感想】

- ・私のグループは「お金持ちのバングラデシュ」とタイトルをつけて逆でした。外で集金するなんて日本ではないからちがうんだなと思いました。
- ・子ども達が洪水の起きたところで遊んでいるのはびっくりしました。
- ・(ダッカの)街ではいろんな看板があったり、信号があったりして日本と同じと思いました。
- ・料理を右手で食べて、左手はよくないと知って驚きました。
- ・国はちがうけど、日本と似ているところが多いと思いました。

【考察】

- ・写真をよく観察して意見を出し合い、そのぶん教師からの解説に関心を多くもてたようだった。
- ・タイトルをつけることにより、写真を細かくあるいは全体的に見ていて工夫する姿が見られた。
- ・10グループ10種類(各1枚)の写真のため、解説に時間がかかり、貧しい部分、豊かな部分についての話し合いの時間が十分確保できなかった。


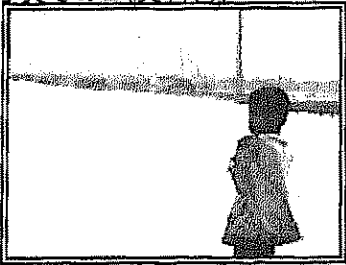
3時限「 Bangladesh のストリートチルドレン①」


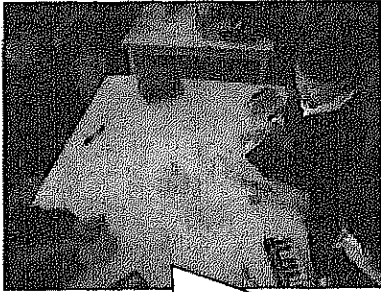

【日時】平成19年11月26日(月)5校時

【ねらい】

- Bangladesh のストリートチルドレンと自分たちの生活との比較をしたりする活動を通して、ストリートチルドレンの現状や気持ちを理解する。

【授業の様子】

学習活動・内容・資料	○指導上の留意点 教師の働きかけ(T)と[児童の反応(C)]
<p>1. フォトランゲージからストリートチルドレンの存在を知る。</p> <p>(1) フォトランゲージ 写真その1 (資料②)</p>  <p>写真その2 (資料②)</p>  <p>(2) ストリートチルドレンについての説明を聞く。</p>	<p>○ スクリーンに写真を映し、何をしているところかを想像させる</p> <p>○ 初めにグループまたは隣の人と意見を出し合い、その後全体で発表させる</p> <p>[児童の反応] C: 窓の向こうだ。 C: 首飾りみたいなものをもっている。 T: これは(乗っていた)車から撮った写真です。 C: 先生達にあげようとしているのかな…? C: 売っているの? 雨が降っているのに。</p> <p>[児童の反応] C: バッグをもっているけど汚い感じ。学校に行くのかな…。でも後ろにはビルも見える。 C: テレビで見たことがあるけれど、学校に行けない人じゃないかな…。 (修正部分をのぞいた写真を見せる、説明に入る)</p> <p>この子達は“ストリートチルドレン”といわれる子です。 今日は Bangladesh のストリートチルドレンについて学習します。</p> <p>○ Bangladesh、さらにダッカ市内での総数、“ストリートチルドレン”の意味を説明する。 ○ “ダッカの子供たち全てがストリートチルドレン”という意識を持たせないようにする。</p>
<p>2. ストリートチルドレンの生活を知る。</p> <p>・「レヌカの学び」(開発教育協会)と「南アの子ども」(協力隊OV櫻田さん実践)をヒントに、カードゲーム「 Bangladesh の子ども(ストリート～、公立小学校)、日本の子ども」(資料③)を行う。</p>	<p>○ 18枚のカードを各グループに配り、内容に沿って「 Bangladesh のストリートチルドレン」「 Bangladesh の小学生」「日本の小学生」に分類する。</p> <p>○ カードの裏は見ないこと、分類するときは意見を出し合って分類するように指示する。</p>

<p>(1) 18枚のカードを分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ストリートチルドレンの生活</li> <li>・ 公立小学校児童の生活</li> <li>・ 日本の小学生の生活</li> </ul> <p>(2) 裏返して確認し、ストリートチルドレンの生活の実態を知る。</p>	<div data-bbox="624 152 1018 577" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(分類するときの様子) [児童の反応]</p> <p>C: “友達はいません” っていうから、ストリートチルドレンかな。</p> <p>C: “児童が 2000 人以上”? これは日本じゃないよ。</p> <p>C: “将来の夢は国のために…” バングラデシュの小学生かな? すごいね。</p> </div> <div data-bbox="1034 152 1437 454" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="624 584 1437 801" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(裏返して確認している様子)</p> <p>C: まちがったけど、ストリートチルドレンも “医者になりたい” っていう夢をもっているんだね。</p> <p>C: わたしも “宝物は勉強すること” って考えたことがない。日本の小学生とは少しちがうね。</p> </div>
<p>3. ストリートチルドレンが生まれる原因について話し合う。</p> <p>(1) 各自の考えを付箋に書き出す。</p> <p>(2) グループごとに KJ 法で分類する</p>	<div data-bbox="624 831 1007 1122" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="1034 831 1433 1122" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="671 1160 1422 1294" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(KJ 法で分類している)</p> <p>C: ねえ、これはどういうこと?</p> <p>C: これは家がいやで自分からなつたって言うか…。</p> </div>
<p>4. 次時の見通しをもつ。</p>	<p>○ 子どもたちがストリートチルドレンになった理由、また彼らを支援する人々の活動について学習します。</p>

**【児童の感想】**

- ・ものごいや資源物を捨てている女の子の写真を見て、かわいそうだなと思いました。
- ・カードを3種類に分けるゲームで、「大切なことは勉強すること」というのが心に残りました。
- ・バングラデシュの小学校はすごく人数が多く、午前と午後で分けていることがおもしろいと思いました。

**【考察】**

- ・資料②(2枚の写真)は導入として児童の興味を引きつけることができ、効果的だった。
- ・「レヌカの学び」を応用したカードは、分類する中でそれぞれの生活の様子を理解することができた。
- ・資料②、カードの分類、KJ 法はいずれもグループで行うので、活発な意見交換がなされた。
- ・45 分間の中に多く活動があるため、グループの活動は活発でも、全体でより話し合ったり、深めたりする時間が少なくなってしまった。活動の精選等が必要である。

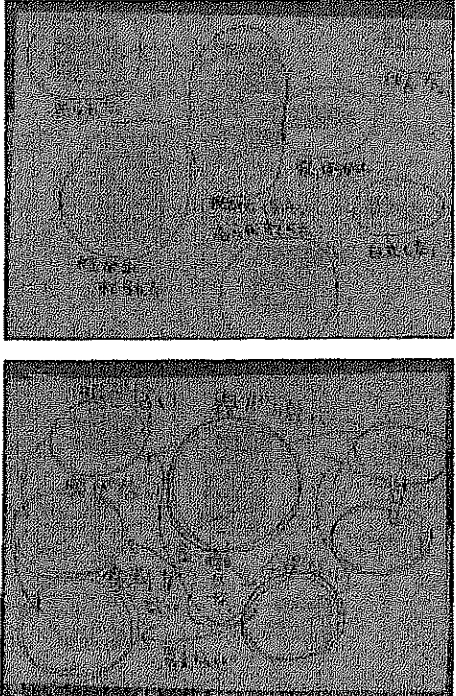
4時限「 Bangladesh のストリートチルドレン②」

【日 時】平成19年12月 6日(木)3校時

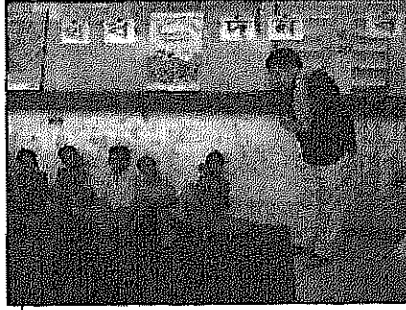
【ねらい】

- ストリートチルドレンとなる原因を考えたり、話し合ったりして理解を深める。
- ストリートチルドレンを支援するNGO団体の取り組みを知り、援助について考える。

【授業の様子】

学習活動・内容・資料	○指導上の留意点 [教師の働きかけ(T)]と[児童の様子(C)]
<p>1. ストリートチルドレンが生まれる理由について、KJ法でまとめた各グループの考えを発表する。</p> 	<p>○ 全部のグループの用紙を掲示し、お互いの考えを共有し、いくつかのグループに発表してもらう。</p> <p>C: 私たちのグループでは、「親に売られた」「お金がなくなって子どもが捨てられた」「家庭の崩壊」「親が死んだ」「自立した」などの意見が出ました。</p> <p>C: ぼくたちでは、親がいなくなったり、働かなかったりする。すると、子どもは服や食料が買えない、家がなくなる…、ということになる。その結果、子どもが働かなくてはならなくなって道路に出ようになってしまうと思いました。</p> <p>C: 中には、「自立」というか、家がいやで、自分から進んでストリートチルドレンになる子もいると思います。</p> <p><b>各グループで共通している、たどりつく問題は何でしょうか</b></p> <p>C: 貧しい。</p> <p>C: お金がない。</p> <p>T: そうですね。貧しい、お金がない、つまり貧困の状態から、食料、家など物質的な問題、やがては家族間の問題、というふうに広がっているようです。ある1人のストリートチルドレンの生い立ちとその生活について見てみます。</p>
<p>2. 1人のストリートチルドレンを取り上げ、ストリートチルドレンが生まれる原因を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントによる説明</li> <li>・参考: シャプラニールブックレット『ダッカのストリートチルドレン』(シャプラニール)</li> </ul>	<p>○ 1人のストリートチルドレンの生活の様子、親や社会に対する考えを聞くことで、ストリートチルドレンに対する理解を深められるようにする。</p> <p>○ 一方的に話すではなく、時折「自分だったらどうするか?」「いったいどうなったと思うか?」と投げかけ、一人一人の考えが深まるようにする。</p>
<p>3. 生活を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント活用</li> <li>・参考: ホームページ『障がいをもつストリートチルドレン』</li> </ul>	<p>○ 障がいをもつ子どもでさえも、ストリートチルドレンとて物乞いをしたりしなくてはならない状況を説明し、Bangladesh の子ども達の現状を理解し、さらに考えを深められるようにする。</p>

<p>4. ストリートチルドレンを支援するNGO団体の取り組みを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ『生きる力をもつ子どもたち』（シャプラニール）視聴</li> <li>・パワーポイント活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ビデオ視聴の後、研修先での小島駐在員の活動をパワーポイント用いて説明する。</li> <li>○ ストリートチルドレンになった背景は一人ひとり異なること、大人に対する不信感を根強くもっていること、しかしながら、活動を通してその不信感が少しずつ取り除かれ、心を開いてきていることを話す。</li> </ul> <p>↓パワーポイントでNGO「シャプラニール」小嶋駐在員の活動を紹介</p>
<p>5. “援助”について考える。</p>	<p>小嶋さんたちが取り組んでいる支援、援助とはどういうものですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>C: 勉強や生活の仕方を教えている。</li> <li>C: 嫌な大人の人から守っている。</li> <li>C: 将来に役立つことを教えている。</li> </ul> <p>T: お金やモノといった支援ではなく、彼らが自立していくための支援をしているのですね。</p>



【児童の感想】

- ・ストリートチルドレンの中には、親から逃げ、自分でかせぎ、過ごしていくのを聞いて心細くなりました。
- ・体に障がいがある子どもさえ、親からストリートチルドレンにされてしまうのを聞いてショックでした。私たちの生活では考えられないと思いました。
- ・ぼくのお父さんはやお母さんは優しくしてくれるから、ストリートチルドレンの子達はかわいそうだと思います。
- ・ストリートチルドレンはかわいそうだけど、ドロップインセンターやストリートスクールのような施設があってホッとしました。
- ・NGOの人がストリートチルドレンのために、勉強や生活の仕方を教えているのはすごいなと思いました。
- ・私は今まで「あれが欲しい」「これが欲しい」って好きなことを言っているけど、これからは少しがまんしたいと思います

【考察】

- ・参考文献やホームページからの情報を教材化したが、ストリートチルドレンになる経緯、生活についてさらに詳しく理解することができた。
- ・説明が多くなり、児童に発問したり、考えさせたりしながら(パワーポイントで)説明するなど進め方をより工夫したい。



5時限「識字率とバングラデシュの女性①」

【日 時】平成19年12月11日(火)5校時

【ねらい】

- “字が読めないこと”が生活の中でどのような不自由さをもたらすかを、模擬体験を通して考え深めることができる。
- バングラデシュの女性の立場について理解する。

【授業の様子】

学習活動・内容・資料	○指導上の留意点 教師の発問(T)と[児童の反応(C)]
1. 学習の見通しをもつ (1) “文字が読めないこと”の体験 (2) 本時のねらいをつかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本の識字率、バングラデシュの識字率を知らせ、文字が読めないことでどんな不便さが生じると思うか数名に聞いてみる。</li> <li>○ バングラデシュの識字率がなぜ低いかは、簡単に触れておく</li> </ul>
2. 識字ゲームを体験する。 (1) やり方の確認 ・父親、母親、子供(1~2名)役 ・子供役が病気 ・薬局に3本容器(薬・水・毒) ・どれを選んでどうするか話し合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 役割分担と状況設定を簡潔に説明する。</li> <li>○ 1セットを提示し、1本しか買えない、家族全員文字が読めない状況で、どれを買い、どのように子供に飲ませるかをグループで話し合わせる。</li> </ul> 
(2) 識字ゲームをやり、自分ならどうするか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループの話し合いには時間をかけ、さまざまな意見を引き出すようにする。</li> </ul> <p>[児童の反応]</p> <p>C: はじめにお父さんが味見してくれないとだめだよ。子どもにすぐ飲ませるのはかわいそう…。</p> <p>C: でも、薬かもしれないからだいじょうぶだよ。</p> <p>C: いやだ。じゃあ、お母さんが飲んでみる。</p> <p>C: 毒だったら死んじゃうんだよね。</p> <p>C: う～ん、どうしたらいいのかな…。</p>
(3) “文字が読めないこと”がどんな不便かを話し合う。	<p>“文字が読めないこと”でどんな不便さを感じましたか?</p> <p>C: 字が読めないと、それが何か分からないし、死んでしまうかもしれないから大変だと思いました。</p> <p>C: 家族になって考えたとき、それが原因でけんかになったりもする。</p> <p>C: 字が読めないというのは、とにかく不自由だと思います。身の回りに字がたくさんあるのに分からないのはかわいそうだと思います。</p>

<p>3. バングラデシュの女性の立場を知る。  (1) パワーポイント  『バングラデシュの女性の立場』  (福島県立富岡養護学校  馬場由佳子教諭作成)を使用</p>	<p>○ 難しい用語については補足説明をする。</p>
<p>4. バングラデシュの女性を貧困から脱出させる方法について考える。  ・「バングラデシュの女性役割カード」(資料④)を使用  ・女性の立場で考える</p>	<p>○ この場合の“脱出”とは、“収入を得ること”と置きかえて考えさせる。</p> <p>○ 互いのカードは見ても良いこととし、その立場(状況)で考えさせる。</p> <div data-bbox="1082 344 1433 609" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="641 631 1433 945" data-label="Text"> <p>【児童の反応】  C：全員お金をもっていないね。  C：“手先が器用”ってあるから、何か作ったりすれば儲けることができないかな…。</p> <p>C：この人は土地をもっているから、4人やその家族で農作物を育てたらどうだろう。  C：その儲けたお金で材料を買って、何かを作れば…。</p> </div> <div data-bbox="628 1016 1238 1057" data-label="Text"> <p>“何かを作る”場合、その材料はどうするのですか？</p> </div> <div data-bbox="628 1070 1145 1111" data-label="Text"> <p>農作物の種や苗はどうしますか？道具は？</p> </div> <p>○ ある程度の土地はあっても、また、特技があってもお金がない状況や家庭環境が厳しい状況では、“収入を得る方法はない(むずかしい)”ということに気づかせる。</p>
<p>5. 次時の見通しをもつ</p>	<p>このバングラデシュの農村部の女性を貧困から脱出させる仕組みを考えた人物がいます。次はその人物がしたことについて学習します。</p>

【児童の感想】

- ・「識字ゲーム」では、字が読めないとまちがってちがう薬を飲んだり、分からなかったりしてすごく不便なんだと分かりました。
- ・農村部の女性が貧困から抜け出す方法はすごくむずかしいと思いました。いったいどんな方法なのか知りたいと思いました。

【考察】

- ・識字ゲームはたいへん盛り上がり、読めないことがどのようなことなのか十分体感できた。
- ・識字ゲームと女性の役割カードを用いた話し合いでは、なかなかその“立場”になって考えるというのが困難で話し合いに時間がかかった。(恥ずかしさもあったのではない)
- ・バングラデシュの宗教的背景(イスラム教)、バリ等の用語等は難しく、理解できない児童も出てしまった。より、分かり易い解説が必要であった。

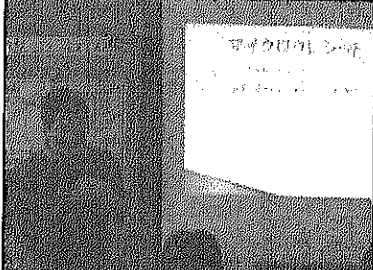
6時限「バングラデシュの女性②」

【日 時】平成19年12月13日(木)3校時

【ねらい】

- 模擬体験を通してムハマド・ユヌス氏が考案した「マイクロクレジット」の仕組みを理解する。
- 生きる喜びをえたバングラデシュの農村部の女性の気持ちを、シミュレーションを通して理解する。

【授業の様子】

学習活動・内容・資料	○指導上の留意点 教師の発問(T)と[児童の反応(C)]
1. 「マイクロクレジット」の仕組みを知る ○ (1) ムハマド・ユヌス博士について (2) マイクロクレジットについて ・パワーポイント 『バングラデシュの女性の立場』 (福島県立富岡養護学校 馬場由佳子教諭作成)使用	○ “融資”“担保”など難しい用語については補足説明をする 
2. マイクロクレジット・シミュレーションを行う。 ・『マイクロクレジット・シミュレーションカード』(福島県立富岡養護学校・馬場由佳子教諭作成)使用	【マイクロクレジット・シミュレーションのやり方】 ① 前時に配付した役割カードの役のままでシミュレーションをする。 ② 1人あたり5000タカ融資されたとする。 ③ 牛、リキシャ、店の写真などを配布し、グループで話し合い、自分がどれを買って仕事を始めるかを決める。 ④ どのような方法を考えたか1～2家族に発表してもらう。 ⑤ 1年後、自分の選んだ収入方法でどうなったか、カードをめくってカードを読む。 ⑥ 他の家族も全員カードをめくって各自読む。
3. 1人の女性・ルナさんの場合について説明する。 ・パワーポイント 『バングラデシュの女性の立場』(福島県立富岡養護学校 馬場由佳子教諭作成)使用	○ 具体的な数字や彼女の生活がどのように変わったかを説明する。 マイクロクレジットで彼女(達)は何がうれしかったと言っていると思いますか？ C: お金持ちになった。 C: 家が建てられたりして喜んだと思う。 T: それもありますが、一番は“家族の一員と認められたこと”“生きる喜びー生きがいを見つけられたこと”なのです。 ○ マイクロクレジットにより、女性の立場の向上し、人間としての尊厳を高めたことをおさえる。

【考 察】

- ・“無担保で借りられる”“少額融資”など小学生にはむずかしい言葉があったが、シミュレーションを通してマイクロクレジットの仕組みは理解できた。
- ・シミュレーションの比重が大きくなり、女性の地位向上、個人の尊厳といったねらいや援助について児童の考えを深めることができなかった。
- ・小学生にあったプレゼンテーション(説明)、教材の工夫、時間の配分など検討が必要である。



7時限「世界をもう少しのぞいてみよう②」

【日 時】平成19年12月13日(木)3校時

【ねらい】

- 世界の現状(子ども達の諸問題)についてもう一度、世界的なデータ・統計から理解し、自分たちにできることについて考える。

【授業の様子】

学習活動・内容・資料	○指導上の留意点 教師の発問(T)と[児童の反応(C)]				
<p>1. 学学習の見通しをもつ (1) 世界の子ども達の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストリートチルドレン</li> <li>・学校にいけない子ども</li> <li>・乳児死亡率</li> <li>・エイズ問題 等</li> </ul>					
<p>2. 世界の子ども達の現状を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・参考;『世界に子どもたちに今おきていること』(葉祥明/きこ書房)</li> </ul>	<p>パワーポイントの内容(1部)↓</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;"> <p>世界には つらく、きびしい仕事をして いる子どもが</p> <p><b>218,000,000人</b> (二億一千八百万人)</p> </td> <td style="text-align: center;"> <p>開発途上国の子どもの5人に1人が 安全な水を飲めない その数、およそ</p> <p><b>400,000,000人</b> (四億人)</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <p>さらに紛争は 保護する大人をなくした子どもたちに 兵士となることを強いる</p> <p>兵士となった子どもは、数十万人 子どもたちは武力戦争に取り込まれ 残虐行跡に加わる</p> </td> <td style="text-align: center;"> <p>貧困下で育った子どもが生きのびて 大人になって 安心して子どもが産める世界が 待っているだろうか</p> <p><b>わたしたちにできることは？</b></p> </td> </tr> </table>	<p>世界には つらく、きびしい仕事をして いる子どもが</p> <p><b>218,000,000人</b> (二億一千八百万人)</p>	<p>開発途上国の子どもの5人に1人が 安全な水を飲めない その数、およそ</p> <p><b>400,000,000人</b> (四億人)</p>	<p>さらに紛争は 保護する大人をなくした子どもたちに 兵士となることを強いる</p> <p>兵士となった子どもは、数十万人 子どもたちは武力戦争に取り込まれ 残虐行跡に加わる</p>	<p>貧困下で育った子どもが生きのびて 大人になって 安心して子どもが産める世界が 待っているだろうか</p> <p><b>わたしたちにできることは？</b></p>
<p>世界には つらく、きびしい仕事をして いる子どもが</p> <p><b>218,000,000人</b> (二億一千八百万人)</p>	<p>開発途上国の子どもの5人に1人が 安全な水を飲めない その数、およそ</p> <p><b>400,000,000人</b> (四億人)</p>				
<p>さらに紛争は 保護する大人をなくした子どもたちに 兵士となることを強いる</p> <p>兵士となった子どもは、数十万人 子どもたちは武力戦争に取り込まれ 残虐行跡に加わる</p>	<p>貧困下で育った子どもが生きのびて 大人になって 安心して子どもが産める世界が 待っているだろうか</p> <p><b>わたしたちにできることは？</b></p>				
<p>3. わたしたちにできることについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインストーミング</li> <li>・KJ法による分類</li> </ul>	<p>○ できることには、“直接できること”“毎日心がけてできること”などあるが、自由に考えを出させるようにする。</p>				

【考 察】

- ・これまでバングラデシュで考えてきたことについて、世界的視野に立つてとらえ直すことを意図したが(パワーポイントの)内容が多く、諸問題についても多岐にわたっていたため、かえって児童の考えをまとめづらくさせてしまった。
- ・さまざまな問題を説明するにしても、活動を取り入れたり、クイズ形式にしたりなどの配慮が必要だった。
- ・“わたしたちにできること”を考えさせたが、本単元のねらいとずれてしまった感があった。

8時限「本当の豊かさって何だろう？」

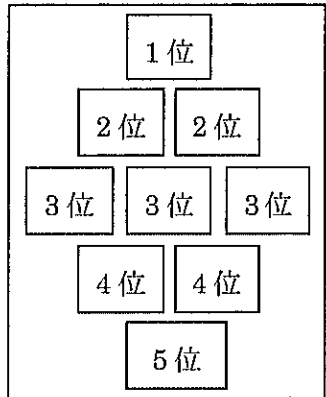
【日 時】平成19年 1月実施予定

【ねらい】

- 世界の現状(諸問題を含む)に対して、自分なりの考えをもったり、自分たちができることについて話し合ったりする。
- “豊かさ”について、互いの考えを出し合い、考えを深めることができる。

【授業の様子】

学習活動・内容・資料	○指導上の留意点 教師の発問(T)と[児童の反応(C)]
1. 学習の見直しをもつ 2. KJ法でまとめたグループの考えを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時(2学期末)にまとめた用紙を壁面に貼り、互いの考えを共有できるようにする。</li> <li>○ 考えの根拠をきちんと説明させる。</li> </ul> T: (児童の考えを称賛しながらも、教師海外研修を通して自身が心がけるようになったこと、変化したことを述べる。)
3. 本当の豊かさについて考える。 (1) グループでの大切なものランキング ・語群…家族、友人、お金、教育、 学校、時間、ゲーム、 食べ物、スポーツ (2) ランキングの結果を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 9つの語群を1位からランク付けし、ダイヤモンドの形になるように用紙に置き、貼る。                          (右図)</li> <li>○ お互いに理由を言いながらグループで話し合ってランキング表を作っていくようにする。</li> <li>○ どれが1位かが重要はなく、その理由を述べ合って話し合うことが重要であることを話す。</li> <li>○ 大切なものを発表し合う中で、本当の豊かさとは何かを考えられるように発問を工夫する。</li> </ul>
4. 学習のまとめをする。 (1) ふり返りシートへの記入 (2) 意見交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの学習をふり返り、印象に残ったこと、考えさせられたこと、自分が心がけたいことなど、自由に記述させる。</li> <li>○ 内容によっては全体の前で発表しづらいことも考えられるので配慮する。</li> </ul>



【実践の前に】

- ・「自分たちにできること」を考えさせることは本単元のねらいではなく、同時に考えるのも難しいと考えたが、前時をふまえてどのような意見が出るかを楽しみにしたい。
- ・「大切なものランキング」は、本実践前に事前にアンケートをとったことから、やってみることにした。ただ、それを話し合う中での互いの理由をしっかりとらせ、「豊かさとは？」を考える際の手がかりとしたい。

### (3) 成果と課題

本研修で得た多くの資料や情報をもとに、児童がバングラデシュを通して世界を知り、自分自身に気づくことができるよう、特に単元構成、単元授業での教材の工夫に努めた。教える側にとっては当たり前でも、児童は“驚いた”“初めて知った”ことが予想以上に多く、意外と知っているようで知らないのだと感じた。だからこそ、我々教える側が世界の現状を知らせたり、投げかけ考えさせたりすることは大切と考える。小学生の彼らに“できること”は“知ること”でもあり、そのことが自分を知る、自分自身と他との関わりを知る手がかりになるのだと思う。

「自分自身を見つめ直し、他(世界・家族・友達)との関わりを大切にす気持ちをもてるように、世界の現状や諸問題を理解できるようにする」について

- 特に、役割カード用いた「世界がもし 100 人の村だったら」、ストリートチルドレンの学習については、自分が住む日本という国、その中に生まれた自分、自分と周囲の人々の関わりを考えさせる上で効果的だった。
- 「バングラデシュを教える」だけでなく、「バングラデシュで教える・考えさせる」のが方針でもあった。しかし、結果的に研修先で見たことや感じたことを伝えることによって、意図した部分を考えさせることにつながったと思う。
- 数字や言葉で世界の現状を教えても、それが児童の中で実際に理解できているかは十分でない。単元内で実践したさまざまなアクティビティを工夫・改善したり新しく取り入れたりすることによって理解につなげたい。

「本校のカリキュラムに位置づける単元を開発するとともに、実践を通してそれを検証していく」について

- 児童の考えをより深めて、ねらいに近づけるには時数的にもっと必要である。しかしながら、少ない時数の中で体験や話し合いを通して、学ぶことのできる本単元計画は対象児童の担任の協力もあってよりよいものが出てきたのではないかと考える。反省をもとによりよい単元計画にしたい。
- 現地での資料や写真等をもとに、初めて実践するさまざまな活動(アクティビティ)を単位時間にとり入れた。その活動を通して児童が考え、理解していく姿は、指導した私自身が驚かされ勉強になった。まだまだ検討の余地はあるものの、単元計画同様、反省をもとによりよい教材、指導の流れをつくっていききたい。
- 単元後半は学期末と重なり、授業の準備(教材・発問等)が不十分な点があった。見直しをもち、単元のねらいに迫れるよう計画を立てていく必要がある。

また、実践の目的とは別だが本実践の大きな成果として、教師海外研修で同行した福島県のメンバー(竹田朋彦教諭、武田重信教諭、馬場由佳子教諭、吉野ひな子教諭、同行した JICA 二本松の橋本千賀子さん)と共に、帰国後の情報交換、現地のアンケートの集計、授業案の検討等の機会を幾度に渡りもてたことは本実践の充実につながった。このメンバーには心よりお礼申し上げたい。

教師海外研修にあたり、事前研修は宿泊での2回にわたって行われた。帰国後の実践を充実させるためにも、事後の研修の場があると、事前研修と同様、いやそれ以上の成果が得られるのではないかと、この場をお借りしてお願い申し上げたい。

#### 《参考文献・資料》

- 「参加型学習で世界を感じるー開発教育実践ハンドブッカー」 (開発教育協会)
- 「新・ワークショップ版 世界がもし 100 の村だったら」 (開発教育協会)
- 「貧困と開発ー豊かさへのエンパワーメントー」 (開発教育協会)

- 「シャプラニールブックレットシリーズ ダッカのストリートチルドレン」 (シャプラニール)
- 「シャプラニールブックレットシリーズ バングラデシュの女性たちは今」 (シャプラニール)
- 「シャプラニールブックレットシリーズ ショミティとは何か」 (シャプラニール)
- 「世界の子どもたちに今おきていること」 (きこ書房)
- ビデオ「生きる力を持つ子どもたちーダッカのストリートチルドレンー」 (シャプラニール)

タイトル(テーマ) Try to be the only one

氏名 吉野 ひな子 英語科 郡山市立日和田中学校(福島県)

実践教科 道徳 時間数 6時間

対象生徒・学年 中学1年生 対象人数 25名

## 1、カリキュラム案

### (1) 実践の目的

Bangladesh で出会った子どもたちの生き生きとした目。その輝かしい子どもたちと日本の子どもたちをつなげられないか、との願いをこめて授業づくりをした。

まず、 Bangladesh の置かれた立場や現状の実態を知ることを通して、自己の向上を図る態度・異性についての正しい理解を深める態度・それぞれの個性を尊重する態度を育む。また国際協力の実態を学ぶことを通して、地球市民として、自分に何ができるかを考える姿勢を育成する。

最終的に、これらの学習を通して、競争社会の中で、他と優劣をつけるのではなく、「Try to be the only one」「個性を生かして自己を磨き続ける大切さ」のメッセージが生徒の心へ届くことを願っている。

### (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 Bangladeshまるかじり	(1) Bangladesh の衣・食・住や地理的特徴・風俗習慣などを視覚的に理解する。 (2) 同年代のストリートチルドレンの生活の様子を知る。	・研修で得た写真・資料を基に作成したパワーポイント 【資料1】 ・DVD『地球の危機を救うお金の使い方』
2限目 文字が読めるって幸せ ～非識字体験を通して～	(1) 資料1を見せ、気づいたことを発表する。 (2) ワーク1: 病人のために、薬を買う。 (3) ワーク2: 文字の読めない人のために、絵を描く。 (4) 文字が読めない状況が、生活する上でどのような不利益をもたらしているのかをクラス全体で考える。	・パワーポイント【資料2】 ・ワークシート ・ペットボトル・コップ

3限目 日本とバングラデシュの教育	(1) フォトランゲージで、分かったことをまとめる。 (2) 写真とその説明から、バングラデシュの教育事情を読み取る。	・パワーポイント【資料3】 ・ワークシート ・DVD『世界とともに生きる バングラデシュ編』
4限目 貧困の連鎖を断ち切ろう ～JICA・UNICEFの活動を通して～	(1) 「貧困カード」を用い、貧困の悪循環を作る。 (2) 悪循環を断ち切り、問題を解決する方法を考える。 (3) 「対策活動カード」を用い、循環図のどこを断ち切るものか、話し合う。	・ワークシート ・貧困カード ・対策活動カード【資料4】
5限目 男女平等な機会を ～Meenaを通して～	(1) バングラデシュのアニメについて知る。 (2) 子どもたちの一日の生活を通して、男女の役割の違いについて知る。 (3) ロールプレイを通して、公平・平等の大切さを知る。	・UNICEF ホームページの資料を基に作成したパワーポイント【資料5】 ・ワークシート
6限目 子どもの権利を知ろう ～子どもの権利条約を通して～	(1) 「権利」とは何かを理解する。 (2) 子どもの権利条約で重要な条文を6つ選び、ランキングし、発表する。 (3) 自分の権利も他人の権利も守るために、自分ができること、みんなですべきことを考える	・子どもの権利条約カード ・ワークシート

### (3) 授業の詳細

#### 1限目 バングラデシュまるかじり

##### ●目標

バングラデシュの概要を知り、学習に関心を持つ。

##### ●内容

- ① バングラデシュという国について生徒の興味関心を高めるために、クイズ【資料1】をする。クイズは、地理・国旗・人口・言語・宗教・民族服・主食・ファーストフード・七不思議・有名人・乗り物の範疇で作成した。全て4択問題にしたため、活発に答えることができた。
- ② クイズ後、TBS で放映された『地球の危機を救うお金の使い方』よりストリートチルドレン・11歳の女の子アメナの日を見ながら、学習する。(約13分)
  - ・ 学校に行けないなんて、かわいそうだな。ぼくたちにできることってないのかな。
  - ・ あんな所で、よく生活しているな。病気になっても薬も買えない、病院にも行けないなんて。想像できない。
  - ・ 募金って大切なんだな。
  - ・ アメナのお母さんは「学校に行くもんじゃない。夢を見るものじゃない。」と言うけれど、信じられない。わたしは学校が好きだし、将来の夢を大切にしたい。貧しいからなのかな。
  - ・ 当たり前前に学校に来ている私たちって、意外と幸せ者…?!

- ・ 宮崎あおいがアメナにプレゼントした「本」に感動しました。
- ・ バングラデシュってけっこう大変な国だ。

## 2限目 文字が読めるって幸せ～非識字体験を通して～

### ●目標

文字の読めない不自由さを体験し、生活していくために識字能力が必要であることを理解する。

### ●内容

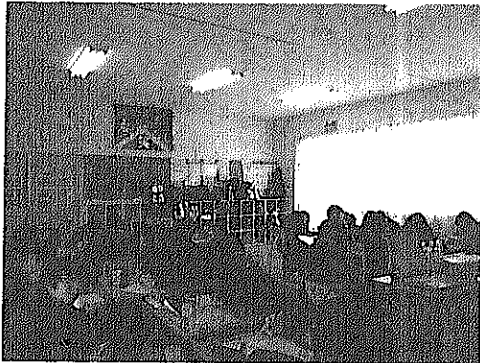
- ①「世界子供白書」の裏表紙の写真【資料2】を見て、感じたことを発表する。
  - ・ 手が2つある。
  - ・ 私たちと同じチョークを使っているんだ。
  - ・ 黒板が汚い。
  - ・ 誰かが絵を一緒に描いている。
  - ・ 変な絵だな。
- ②数値【資料2】を示し、何を表わしているか考える。
- ③(課題1)中国語の「火車」「超級市場」「手紙」の言葉の意味を連想してみる。
- ④(課題2)シュミレーション:大切な人が病気になりました。薬を買わなくてはなりません。店には薬・水・毒が売られています。大切な人のために薬を買って下さい。  
文字【資料2】を提示後、読めない場合の対策を考える。
- ⑤実際に、水(水)・毒(塩水)・薬(桃の天然水)を飲んでみる。
- ⑥文字の読めない人のために、水・毒・薬のラベルの絵を描く。
- ⑦まとめ
  - ・ 文字が読めないととても不便なことがわかった。
  - ・ 文字が読めなくても絵を見れば分かるが、絵でも表せないものもあると思う。
  - ・ 文字がわからない人が世界にこんなにたくさんいるのが少しショックでした。
  - ・ 私たちは文字が分かるので、それはとても大切なことなんだなあと改めて思った。
  - ・ 手紙や重大な知らせを読むことができず、返事が書けない。そうすると、人間関係が崩れてしまう。
  - ・ 文字が読めないと、互いの感情を伝えられない。
  - ・ 一人でも多くの人に、読み書きができるようになって欲しいと思う。
  - ・ お母さんが自分の子供に字の書き方を教えてもらったりと日本とは逆のことが起きていることに驚いた。
  - ・ 文字が読めないと、危険と隣り合わせだ。



左から毒・水・薬



実際に飲んでみよう



学習の振り返り

### 3限目 日本とバングラデシュの教育

#### ●目標

日本・バングラデシュの教育事情の相違点知る。

#### ●内容

- ①パワーポイント【資料3】を見て、何であるか考える。
- ②バングラデシュの洪水と併せて、特別な学校の在り方を知る。
- ③パワーポイント【資料3】を見て、気づいた点を発表する。
- ④DVD『世界とともに生きる バングラデシュ編』の教育編(約5分)を見る。
- ⑤まとめ

### 4限目 貧困の連鎖を断ち切ろう～JICA・UNICEF の活動を通して～

#### ●目標

「悪循環の輪を断ち切る」ために様々な援助があることに気づく。

#### ●内容

- ①「貧困」とは何かを考える。
- ②「貧困」はたくさん問題を孕んでいる。それら全ての問題には因果関係があり、貧困の循環図が作れることを知る。



### 「貧困」カード

(貧困・学校・栄養が十分とれない・職業技術・栄養不良・失業・健康・不十分な収入)

③「貧困カード」を使って、貧困の悪循環を考え、グループ毎に発表する。

④悪循環を断ち切り、問題を解決する方法を考える。

⑥「対策活動カード」【資料4】を用い、循環図のどこを断ち切るものか、話し合う。

### 「対策活動カード」

(教育・保健・栄養・井戸づくり・トイレ・改良型かまどを広める・職業訓練・女性の識字・女性への少額融資・緊急救援)

⑦まとめ

## 5限目 男女平等な機会を～Meenaを通して～

### ●目標

男女平等の機会を与える啓蒙活動の一例を知る。

### ●内容

①パワーポイント【資料5】を見て、Meenaのアニメについて知る。

② “Dividing the Mango”の物語をパワーポイント【資料5】で視聴する。

### “Dividing the Mango”の内容

お母さんにマンゴーを分けてもらうミーナと弟ラジュ。ミーナはラジュよりも明らかに分け前が少ないことに戸惑う。おばあちゃんは「男の子はいつも女の子よりも多くもらうものだ」と言う。夕飯時、またも分け前の少ないことに不満気のミーナはおばあちゃんに怒られる。しかし、お父さんは「子どもたちは二人とも一所懸命に働いているのに、不公平だ」と言う。翌日、ミーナとラジュは役割を交換することを約束する。翌日、早朝から夕方までミーナの仕事をするラジュは、思っていた以上にミーナの仕事が大変であることを知る。夕飯時、分け前の少ない皿を前に落胆するラジュを見て、家族みんなは「男の子も女の子も同じ分け前を与えられ、成長する権利がある」と理解する。翌日、マンゴーを取るラジュは、きれいに半分に分けて、ミーナと幸せそうに食べる。

③男の子と女の子の一日の役割を知る。

④ロールプレイ～公平・平等ってどんなこと？～をする。

⑤まとめ

6限目 子どもの権利を知ろう～子どもの権利条約を通して～

●目標

自分も他人も権利を持っており、それを尊重する大切さを学ぶ。

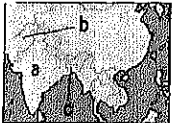

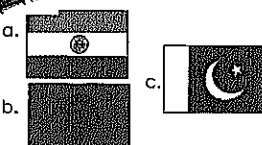

●内容



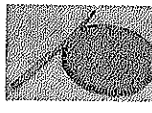

- ①「権利」について知る。
- ②「子どもの権利条約」(1～40条)を知る。
  - 生きる権利
  - 育つ権利
  - 守られる権利
  - 参加する権利
- ③グループ毎に「子どもの権利条約」の中で、重要な条文を6枚選ぶ。
- ④選んだ6枚をランキングする。その際、全てのカードを全員が目を通し、決議は合議で行う。
- ⑤各グループで、選んだ6枚、順位、理由を発表する。
- ⑥自分の権利も他人の権利も守るために、自分ができること、みんなですべきことは何であるかをまとめる。

参考文献:



- 『バングラデシュを知るための60章』大橋正明、村田真弓 明石書店 2003  
『わたしたちのダッカ』在バングラデシュ日本国大使館付属ダッカ日本人学校 2002  
『1999年世界子供白書 教育』UNICEF 1999  
『ユニセフの開発教育のための教育 地球市民を育てるための実践ガイドブック』UNICEF 1999  
『ユニセフと世界のともだち』UNICEF 2007  
Star Weekend Magazine, vol.12 issue 549 (August 17, 2007) Dhaka  
[http://www.unicef.org/rosa/media\\_2479.htm](http://www.unicef.org/rosa/media_2479.htm)  
[http://www.unicef.org.nz/about/How/Bangladesh\\_story.doc](http://www.unicef.org.nz/about/How/Bangladesh_story.doc)  
DVD『世界とともに生きる ODA TODAY バングラデシュ編』ODA  
DVD『～緊急提言スペシャル未来の子どもたちへ～地球の危機を救うお金の使い方』TBS 2007年9月3日放送

【資料1】1限目「バングラデシュまるかじり」パワーポイント(一部抜粋)

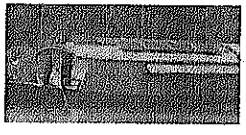
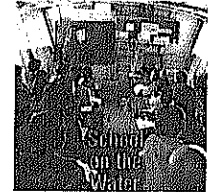


<p><b>地理</b></p> 	<p><b>C.</b> a.はインド。b.はバキスタン。 国土の5割が海抜10m以下で、首都ダッカも7mくらいしかない。そのため、毎6・7月の雨季には洪水が起きる。</p> 	<p><b>国旗</b></p> 	<p><b>b.</b> a.はインド。b.はバキスタン。 緑がイスラム教を、赤い丸は独立に流された血を表している。丸は風になびいても中央に見えるように少し旗竿側に寄せてある。</p> 
--	---	---	--

<p><b>七不思議</b> これは何でしょう？</p> <p>a. ひげそり b. 包丁 c. 草刈り</p> 	<p><b>b. 包丁</b></p> <p>一般家庭で、このように使われています。因みに、まな板はありません。</p> 	<p><b>七不思議</b> これは何でしょう？</p> <p>a. はえたたき b. おぼん c. うちわ</p> 	<p><b>c. うちわ</b></p> <p>このうちわは竹でできています。村の女性が、内職として竹製品を作っています。</p> 
--	--	---	---

【資料2】2限目「文字が読めるって幸せ～非識字体験を通して～」パワーポイント  
(一部抜粋)




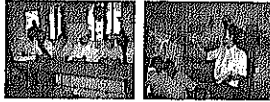
<p>気づいたこと、感じたことは？</p> 	<p>この数値が表わすものは何？</p> <p>日本 ほぼ100% バングラデシュ 約40%</p>	<p><b>識字率</b></p> <p>文字を読み書きできる割合のことです。</p> <p>識字率100%ということは、日本人は全員が読み書きができるということです。 識字率40%とは、バングラデシュの人は10人に4人しか読み書きができないということです。</p>	<p>課題2: シミュレーション</p> <p>あなたの大切な人が病気になるしました。薬を買いに行かなければなりません。店には薬・毒・水が売られています。大切な人のために薬を買って下さい。</p>
<p>どれが薬でしょうか？</p> <p>① বিষ ② পানি ③ ওষুধ</p> <p>さあ、読めましたか？ わからない場合、薬を買うためにあなたはどうしますか？</p>	 <p>自分の娘に助けられて自分の名前を書く母親</p>	<p>バングラデシュのある村では・・・</p> <p>少女たちが世界識字デー(1994年9月4日)に母親たちに読み書きを教えることを約束したそうです。</p>	<p>世界識字デー(1994年9月4日)とは？</p> <p>1965(昭和40)年のこの日、イランのパーレビ国王が軍事費の一部を識字教育に回す提案をしたことを記念しています。 1990年に国連が国際デーとして定めました 2000年現在、成人非識字者数は全世界で約8億8000万人といわれています。</p>

【資料3】3限目「日本とバングラデシュの教育」パワーポイント(一部抜粋)



<p>これは何でしょう？</p> 		<p>気づいたこと、感じたことは？</p>  <p>ダッカ市内の公立小学校</p>	<p>気づいたこと、感じたことは？</p>  <p>小学5年生用英語の教科書</p>
--	---	---	---

【資料4】4限目「貧困の連鎖を断ち切ろう～JICA・UNICEFの活動を通して～」

対策活動カード(一部抜粋)

<p><b>女性の識字教室</b></p> <p>学校に行く機会がなかった女性が、読み書きを覚えながら健康や栄養の知識を学べるようにする。</p> 	<p><b>井戸づくり</b></p> <p>村に井戸を作り、村の人々が管理する。井戸ができると、病気にならない衛生的な水が使え、遠くまで水汲みに行く時間を減らすことができる。</p> 	<p><b>栄養</b></p> <p>野菜やにわとり、魚などの育て方を伝え、子どもの成長に必要な栄養を自分たちでとれるようにする。また、病気の時の栄養の取り方を教える栄養指導員を育てる。(？ 下痢の時の対処法)</p> 	<p><b>教育</b></p> <p>学校に行けない子供を減らすために、学校を閉じたり、飲料を届けたり、先生を育てたりする。</p> 
---	--	---	---

【資料5】5限目「男女平等な機会を～Meenaを通して～」パワーポイント(一部抜粋)

<p>このアニメを知っていますか？</p>  <p>ダッカ市内の公立小学校</p>	<p>Meena(ミーナ)ってだれ？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●9歳の女の子</li> <li>●南アジア出身</li> <li>●祖母・父・母・弟・妹と暮らす</li> <li>●バングラデシュでテレビ・マンガ・ラジオなどを通して、子どもたちに親しまれているアニメの主人公</li> </ul> <p><a href="http://www.unicef.org/roa/media_2475.htm">http://www.unicef.org/roa/media_2475.htm</a></p>		
--	--	--	---

タイトル (テーマ) ドンノバード (ありがとう) ! バングラデシュ

氏名 馬場 由佳子 福島県 福島県立富岡養護学校

	実践教科	時間数	対象児童生徒	対象人数
A	生活単元学習 クラブ	5時間 (予定)	本校小学部1～6年	34名
B	総合的な学習の時間	1時間	本校中学部1～3年	18名
C	生活単元学習	3時間 (予定)	本校高等部2年	14名
D	生活単元学習	2時間 (予定)	本校高等部3年	6名
E	文化祭 オープンスクール	2時間	富岡高校国際コミュニケーションコース、中学生、一般	
F	ふくしまグローバル セミナー	1時間	高校生、一般	21名

#### (1)カリキュラム案

##### ①実践の目的

<福島県立富岡養護学校>

本校は、知的障害養護学校である。自立と社会参加を目指し、児童生徒の実態、教育的ニーズに応じて、基本的生活習慣の確立や対人関係の拡大を心がけた指導を行なっている。国際理解教育、開発教育に関してはあまりふれたことがないが、児童生徒の中には英語や地図に興味を持つ子もおり、一部の学級では英語を題材にした授業を行なっている。過去に英語曲で運動会のダンスを行なったこともある。

今年度は、バングラデシュと日本のいいところを伝えることを目的に取り組んだ。その際、国際理解教育の基礎である「自分を好きになる」「相手を思いやる」という視点を大切にしたい。

実践は、小学部・中学部・高等部それぞれで行った。各学部共通して、クイズやゲームを取り入れてまずバングラデシュに興味を持ってもらえるようにした。その後、発達段階に応じて内容を厳選して取り組むようにした。小学部では、遊びや絵を描くことを通して、日本もバングラデシュも同じ地球に住む仲間だと感じることを目標とした。高等部2年では、調理を通して食文化の多様性を学ぶ。高等部3年では、バングラデシュの直面する課題に触れ、自分たちも地球の未来を担う一員だと感じてもらえるような活動にできればと考えた。

<富岡高校、ふくしまグローバルセミナー>

2006年にノーベル平和賞を受賞したバングラデシュのグラミン銀行総裁ムハマド・ユヌス氏が考案した「マイクロクレジット」を題材に、バングラデシュや日本、世界に目を向けるきっかけになることを目的に実践を行なった。

②授業の構成案

A 本校小学部1～6年(34名)・生活単元学習、クラブ(2限目のみ)

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 対象：小学部1～6年34名 テーマ： Bangladesh 人に変身しよう！ ねらい： Bangladesh を知り興味を持たせる。	(1) Bangladesh の民族衣装を着る。 (2) Bangladesh の言葉でのあいさつ (3) Bangladesh のスライドショーを観る。 (4) Bangladesh ○×クイズをする。資料1参照 (5) 日本と Bangladesh の米菓子を食べくらべる。	(1) 民族衣装 (2) Bangladesh の写真 (3) Bangladesh ボックス (4) 米菓子(日本：おかき、 Bangladesh :チラ)、チャー
2限目 対象：小学部4～6年15名 テーマ：カナマチをしよう！ ねらい： Bangladesh の遊びを楽しむ。	(1) Bangladesh の子どもたちがどのような遊びをしているか写真とアンケート集計から知る。 (2) Bangladesh の遊び「カナマチ(目の見えないはえ)」で遊ぶ。	(1) Bangladesh の写真 (2) Bangladesh の方々からとったアンケート
3限目 対象：小学部5・6年4名 テーマ：カレーを作ろう！ ねらい： Bangladesh の食文化を知る。	(1) 日本のカレーと Bangladesh のカレーを作って食べ比べる。	(1) スパイス (2) カレーレシピ
4、5限目 テーマ：みんな友だち！ 対象：小学部1～6年34名 ねらい：絵を通して、 Bangladesh の友だちと幸せについて考える。	(1) 本校児童と Bangladesh の子どもたちからとったアンケートを比較する。 (2) Bangladesh の子どもたちが描いた絵を鑑賞する。 (3) 幸せについての絵を一枚の模造紙に描く。	(4) Bangladesh の子どもたちが描いた絵 (5) 本校児童、 Bangladesh の方々からとったアンケート (6) 模造紙、画用紙、絵の具等

B 本校中学部1～3年(18名)・総合的な学習の時間

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 テーマ： Bangladesh ってどんな国？ ねらい： Bangladesh を知り興味を持つ。	(1) Bangladesh の民族衣装を着る。 (2) Bangladesh の言葉でのあいさつ (3) Bangladesh のスライドショーを観る。 (4) Bangladesh ○×クイズをする。資料2参照 (5) Bangladesh の菓子を食べる。	(1) 民族衣装 (2) Bangladesh の写真 (3) Bangladesh で収集したノクシカタ、笛など (4) マンゴーバー、チャー

C 本校高等部2年(14名)・生活単元学習

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 テーマ：知っている？スパイスとカレー ねらい：スパイスの香りや味	(1) Bangladesh のスライドショーを見る。 (2) Bangladesh の食べ物クイズをする。 (3) Bangladesh のスパイスと日本のスパイス(七味唐辛子)の味や香りを比べる。	(1) Bangladesh の写真 (2) Bangladesh のスパイス、日本のスパイス

などを感じることでスパイスに関心を持ち、スパイスの多様性を学ぶ。		
2、3限目 テーマ:バングラデシュのカレーを作ろう! ねらい:バングラデシュのカレーを作り食べることで食文化について知る。	(1) バングラデシュのカレーを作って食べる。 (2) 手食の文化について学び、実際に手で食べてみる。	(1) スパイス (2) カレーの材料 (3) バングラデシュの写真、ビデオ

#### D 本校高等部3年(6名)・生活単元学習

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 テーマ:バングラデシュってどんな国? ねらい:バングラデシュを知り興味を持つ。	(1)バングラデシュの民族衣装を着る。 (2)バングラデシュの言葉でのあいさつ (3)バングラデシュのスライドショーを観る。 (4)バングラデシュ〇×クイズをする。 (5)バングラデシュの菓子を食べる。	(1) 民族衣装 (2) バングラデシュの写真 (3) バングラデシュで収集したノクシカタ、笛など (4) チラ、チャー
2限目 テーマ:ストリートチルドレン ねらい:ストリートチルドレンについて知り、考える。	(1) 本校生徒とバングラデシュの子どもたちからとったアンケートを比較する。 (2) ストリートチルドレンの写真を観る。 (3) 幸せについて考える。	(1) バングラデシュの写真 (2) 本校生徒、バングラデシュの方々からとったアンケート

#### E 富岡高校国際コミュニケーションコース・文化祭、オープンスクール

テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
テーマ:世界の国々を知りたい!バングラデシュ ねらい:バングラデシュやマイクロクレジットについて興味を持つ。	(1) バングラデシュで収集した衣装やノクシカタ、小学校教科書の展示 (2) バングラデシュの数字クイズ (3) マイクロクレジットに関する写真展示や説明 (4) バングラデシュで撮影したビデオの上映	(1) バングラデシュで収集した衣装やノクシカタ、小学校教科書 (2) バングラデシュで撮影したビデオ

#### F 高校生、一般(21名)・ふくしまグローバルセミナー(松本大光先生と実施)

テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
テーマ:ドンノバード!マイクロクレジット ねらい:マイクロクレジットを知ることで、生活向上のために努力している農村女性の想いを感じ取る。 指導案:資料3参照	(1) 自己紹介&グルーピング (2) バングラデシュについての説明、バングラデシュの女性の立場に関する統計の確認 (3) 自分だったら何ができるか話し合いをする。 (4) マイクロクレジットの仕組みについて知る (5) シミュレーションを行う。 (6) 農村女性がマイクロクレジットを借りて行ったことを具体的な数字を含めて確認する。	(1) バングラデシュの写真 (2) パワーポイント資料4参照 (3) TBS「世界を変えるお金の使い方」ビデオ (4) 役割カード (5) 投資カード

### (3) 授業の詳細

#### A 本校小学部1～6年(34名)・生活単元学習、クラブ(2限目のみ)

##### 【1限目】<資料1参照>

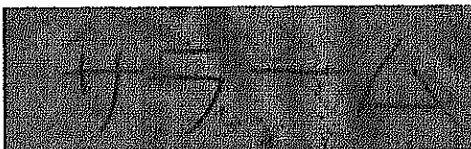
中学部での実践時に衣装に興味を持つ生徒が多く、そのとき通りがかった小学部児童も担任に「今度着るんだ」と言って楽しみにしている様子だったので、研修に行かれた先生方からお借りして、児童全員が Bangladesh の衣装を身につけられるようにした。クイズは、海外研修へ行く前に児童からとったアンケートをもとに作成した。移動が難しい児童もいるので、○×の札を用意その場で楽しめるようにした。



↑写真:○×クイズに答える児童ら。

##### 児童の反応

実際に衣装を着けると、Bangladesh の雰囲気を感じられるようで、集中して授業に参加している児童が多かった。他の教員から「普段授業中すぐ飽きて立ち歩いている子も、今日は1時間座っていることができた。とても楽しかったようだ」という言葉をかけてもらった。



↑写真:授業後の落書きにもベンガル語が登場した。

写真:衣装を着けてハイポーズ!→



←写真:  
Bangladesh と日本の米菓子の食べ比べをする児童。  
「チラ」は、少し辛いがおいしかったようで、パクパク食べる子が多かった。



##### 【2限目】

Bangladesh の伝統遊び「カナマチ」を行なう。これは、海外研修時に Bangladesh の方々にアンケートを実施した際の回答にあった遊びである。アンケートの中に「あなたはどんな遊びをして過ごしていますか?」の問いを入れていただいた。カナマチとは、目の見えないはえという意味で、目かくし鬼のような遊びである。ベンガル語の翻訳をお願いした福島県伊達市在住のシャオンさんに遊び方を教えていただいたので、子供たちがより楽しめるように歌をつけて遊ぶ予定である。

## B 本校中学部1～3年(18名)・総合的な学習の時間

### 内容<資料2参照>

導入では、ベンガル語のみであいさつや自己紹介、数字の読み方などの説明を行なった。印象が強かったようで、授業後質問に来た生徒もあり、自作のベンガル語会話帳のコピーをあげると、他の先生にベンガル語で話しかけて楽しんでた。

〇×クイズではウルトラクイズのようにして、体を動かしながらバングラデシュを知ることができるようにした。クイズをするとき、だれが何問正解できたか記入できる紙を用意しなかったのが、成績優秀な生徒を正確にほめることができなかった。

「バングラデシュの子どもたちと中学部の生徒」のフォトシネマを作成して鑑賞した。どちらも笑顔の写真を使ったのだが、それぞれの表情に注目させることができなかった。

今回の授業の反省点を、Dの高等部3年で実践するときを生かしていく予定である。国紹介に終わらず、自分とのつながりに結びつけられるようにしていきたい。

### 生徒の反応

授業後も声をかけてくれる生徒が多かった。

- ・現地で購入した生活用品や服に興味を持ち、「また服を貸してね」
- ・会うたびに「〇〇はバングラデシュでなんていうの？」と言葉やあいさつについて聞いて、その場で使う。
- ・「先生、バングラデシュ行ったの？バングラデシュって〇〇ある？」

## C 本校高等部2年(14名)・生活単元学習

生徒たちにとって身近なカレーを素材にした授業を行なう。バングラデシュの食事場面のビデオや食に関する写真を用いての説明や、現地で購入した米やスパイスを使ってバングラデシュのカレーを作り、食べることを通して、食文化を少しでも体験することができるようにする予定である。

## E 富岡高校国際コミュニケーションコース・文化祭、オープンスクール



国際コミュニケーションコースの教室に、授業や、ウズベキスタン、中国、イギリスなどのブースがあり、その中の JICA ブースの一角に展示させていただいた。今回の研修で購入した教科書や衣装、ノクシカタ、ビデオやフォトシネマ、マイクロクレジットに関するパネル展示を行った。

オープンスクールと同日だったので、中学生も多く、教科書や小学校の授業を撮影したビデオに興味を持って見ている。バングラデシュ人の友だちがいるという一般の方もおり、教育事情などについて説明することができた。

他のブースでは、識字ゲームなど簡単なワークショップを行なっており、高校生が興味を持って参加していたが、私のブースは展示ばかりで物足りなかったようだ。マイクロクレジットについてなど、見せ方に工夫をすればよかったと反省した。



## F 高校生、一般(21名)・ふくしまグローバルセミナー(松本大光先生と実施)

### <資料3・4参照>

ふくしまグローバルセミナーは、国際交流・協力、多文化共生、国際理解教育について学ぶ参加型セミナーである。外国出身者による国紹介から、国際理解プログラム、海外ボランティア体験談など30を超える幅広い内容の講座の一つとして実践を行なった。

実際に見て、感じてきた Bangladesh の現状を伝えることが、教師海外研修を知ってもらおうことにつながると考えた。そこで、研修報告の形ではなく、2006年にノーベル平和賞を受賞し世界的にも話題となっているムハマド・ユヌス氏が考案したマイクロクレジットを題材に講座を組み立てた。

### 参加者の反応

話し合いやシミュレーションでは、活発な意見交換がされて参加者の意識の高さを感じた。貧しい人にお金をあげるのではなく、貸すことで自立を促すマイクロクレジットの考え方に参加者は常識を覆されたようだった。また、シミュレーションカードを工夫し、農村女性の生活向上について参加者が実感することができた。

『一番おもしろい講座だった。マイクロクレジットについては新聞などで知っていたが、パルダなど女性のおかれている状況についてまでは知らなかったので、ノートにたくさんメモをとった。』(参加者の感想より)

## 成果と課題

### ①養護学校での実践について

今回の研修に参加し、各学部にて授業をお願いしたところ、小・中・高学部それぞれで機会を作っていた。初めての国際理解教育、開発教育の実践だったが、多くの先生方の理解と協力を得ることができ、養護学校の児童生徒なりに Bangladesh の人々も同じ地球に住む仲間だということを感じてもらうことができた。今年度の目的だった Bangladesh と日本のいいところを伝えるのはまだ不十分な点もあるので、三学期に実践予定の授業を組み立てていきたい。

それから、授業以外にも、校内の文化祭などで Bangladesh に関する掲示をすることができた。児童生徒や教員に Bangladesh のよさを伝えられるように努力した。

今回の研修では本当にたくさんの方々にお世話になった。学んだことを糧に、今後さらに国際理解教育、開発教育を養護学校で実践するために努力を重ねていきたい。

### ②地域での実践(富岡高校、ふくしまグローバルセミナー)について

ふくしまグローバルセミナーでは、JICA 二本松橋本千賀子さんや今回の研修に福島県から参加した松本大光先生はじめ5名の先生と一緒に講座内容を検討・準備ができたのでいい講座を作ることができた。これからもセミナーや研修会に積極的に参加し、国際理解教育、開発教育の手法を学んでいきたい。

資料1 小学部1限目 クイズ

〇〇〇くんからのしつもん

バングラデシュは  
あついですか?

どつた?

あつい! ○	あつくない! ×
-----------	-------------

せいはいは ○ です



とってもあついでいけきおふるがわりに  
しているおじさんがいました。


〇〇〇〇くんからのしつもん

バングラデシュの学校に  
うどんかいありますか?

どつた?

うどんかい ある! ○	うどんかい ない! ×
-------------------	-------------------

せいはいは × です



こうていはせまく、いっぱいこどももいるので  
うどんかいはないそうです。


〇〇〇くんからのしつもん

バングラデシュに  
らくだはいますか?

どつた?

らくだはいる! ○	らくだはいない! ×
--------------	---------------

せいはいは × です



らくだはいないけど、  
うし、やぎ、あひるはいたよ!

資料2 中学部1限目 クイズ (部分)

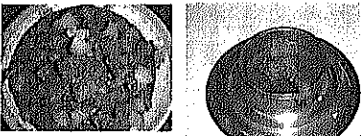
だい1もん

バングラデシュの人は、まいにちカレー  
をたべている。○か×か?

○ へーん	× なー
----------	---------

せいはいは ○

トルカリ(おかずというみ)や  
ダール(まめのスープ)など、カレー  
にもたくさんしゆるいがあります。




だい4もん

ルンギは、男の人が着るスカートであ  
る。○か×か?

○ へーん	× なー
----------	---------

せいはいは ○

ルンギは、男の人が着る服です。ちなみ  
に、これを着ている時は、パンツもは  
かないそうです。



資料3 ふくしまグローバルセミナー講座案(松本大光先生と実施)

福島県立富岡養護学校 馬場由佳子  
福島市立湯野小学校 松本 大光

- 1 講座名 「ドンノバード! マイクロクレジットー平成19年度教師海外研修ー」
- 2 日 時 平成19年12月15日(土)(60分)
- 3 ねらい バングラデシュのマイクロクレジットを知ることで、生活向上のために努力している農村女性の想いを感じ取る。
- 4 場 所 JICA 二本松 研修棟2階・219号室
- 5 講座参加者 21名
- 6 学習過程



	学種活動・内容	参加者の活動とファシリテーターの支援 (○参加者の行動 ★馬場 ☆松本)	学習 形態	使用教材
	(準備)	机、いす →4人で1グループ、6グループくらい作成しておく。 (参加者が22人のため) ★☆☆講座Aを早めに切り上げて、会場の準備等をする。		
導 入	1 自己紹介(2分) 2 アイスブレイキング& グループピング(5分)	★☆☆自己紹介 (学校名・教師海外研修に行ってきたこと等簡潔に) ○「あなたはどっち?」を行う。(○の数を覚えてもらう) (★松本が進行・★馬場がパワーポイント) 「質問1 あなたは、車のクラクションをガンガン鳴らしても(鳴らされても)平 気である。○か×か?」 「質問2 あなたは、トイレに紙がない場合、手で拭いてもいい。 ○か×か?」 「質問3 あなたは、お金の全くない人にお金を貸す(あげるのではない)こと ができる。○か×か?」 → ○が3つ、2つ、1つ、0の順に立って並んでいただき、4人ずつグルー ピングする(機械的に。早く)。 ※ 1つのグループが必ず4人になるようにする。  ☆「今できた4人組のグループで、今日のこの講座の中の話し合いやシミュレ ーション活動をやっていききたいと思います。簡単に自己紹介をしてください。 (○参加者は自己紹介) 今、お答えいただいた○や×の内容についても、バングラデシュの生活の仕 方、あるいは講座内容にも関係がありますので、折に触れて説明していき たいと思います。」 ※4人組×5グループの予定。→当日の参加人数による。	一斉	パワーポイン ト(馬場)  「○」 「×」の札 (25組)
展 開	3 バングラデシュについての説明 (3分) ・ 位置 ・ 面積、人口 ・ 宗教、通貨 ・ 街の写真と農村部の写真	★ バングラデシュの概要をパワーポイントその1で紹介する。(3分) (○参加者は視聴。★パワーポイントでのサポート。)  ★ 紹介(概要説明の中で、街に男性、農村部には女性が多いことに気付 かせる。 (★)「この2枚の写真を見て、気付いたことはありますか?」 →○参加者が気づく(ようにする。)  ★ 気づいた点を参加者から引き出しながら、「4 バングラデシュの女性の立 場」にスムーズにつなげられるようにする。	一斉	パワーポイン ト(松本)
	4 バングラデシュの女性の立場に 関する統計の確認(7分) ・ 貧困人口、乳児死亡率 ・ 識字率、平均寿命 ・ イスラム教の価値体系 ・ バルダ、パリ ・ 農村女性を取り巻く環境	★ バングラデシュの女性の立場について説明をする。(7分) (○参加者は視聴。★パワーポイントでのサポート。) ※ この説明が、のちの話し合いやシミュレーションにとって重要。	一斉	パワーポイン ト(松本)

<p>5 女性のために、もし自分だったら何ができるか話し合いをする。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの進め方の説明</li> <li>・話し合い</li> <li>・発表</li> </ul>	<p>☆ 松本がグループごとの話し合いの仕方の説明をする。(★サポート)</p> <p>「今の説明にあったように、バングラデシュの、特に農村部の女性は大変厳しい立場、状況にあることが分りました。そこで参加者の皆さん。もし皆さんがこの女性たちと同様な立場にあった場合、どのようにしてこの状況から脱出させますか？これからグループで話し合っていたいただきたいと思います。</p> <p>(1つのグループは4人。※すでにグループピングはしてある。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 机の真ん中の4枚のカードを一人1枚ずつとる。</li> <li>② カードに書いてある人物が自身の役割となる。</li> <li>③ 女性役3人を貧困から脱出させる方法を4人で話し合う。 ※ 方法は、立場から生み出すものでなくてよい。</li> <li>④ 5～6分話し合い、いくつかのグループからアイデアを発表してもらう。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 役割分担(カードの中身)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ア 女性A(アルピア・カチャン 43歳。 金は1タカもなし。 夫は病気で亡くなっている。 働き盛りの息子1人と娘3人がいる。 自分は病気がち。)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>イ 女性B(シャブラ・ユコリン 48歳 お金は1タカもなし。 子どもはダッカに出稼ぎにしている。 竹で椅子を作る技術をもっている。 恥ずかしがり屋。)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ウ 女性C(フルジャ・ハン 28歳 お金は1タカもなし。 小さい子供3人をもつ。 夫も若い仕事がない。 おしゃべりで親分肌。)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>エ 銀行員(モジャ・マリハ 36歳 20000タカ 持っている。 カレー好き。 なかなか健康。 まじめで人がよい。)</p> </div> <p>※ グループの中でバングラデシュ教師海外研修参加者は、マイクロクレジットには触れず、参加者の考えを引き出すようにする。</p> <p>2つぐらいのグループに発表させたあと、農村部の女性の自立を支援した方法「マイクロクレジット」の名称を知らせ、映像試写に移る。</p> <p>★ ☆松本の説明の後、各グループを回り話し合いの様子を聞く。 やり方が分らない、話し合いが上手く進まない場合は支援する。 アイデアが出たグループを選んで発表させる。</p> <p>★★グループ内でおもしろい意見、よい意見は付箋にメモしておくなどし、後の発表に生かせるようにする。</p>	<p>グループ</p> <p>役割カード4枚×5グループ</p>
<p>6 マイクロクレジットの仕組みについて知る(8分)</p>	<p><b>ビデオ、パワーポイントその2を観る</b></p> <p>※ビデオ「世界を変えるお金の使い方」を観る。☆PC操作 ○マイクロクレジットについて補足説明をする。☆PC操作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牛の写真</li> <li>・ 特技を生かした手作りの帽子や椅子</li> <li>・ 息子にリキシャ →これらの写真を見せながら説明</li> </ul> <p>※初めのクイズの問題が、「常識を覆す」と繋がっていることをやんわりと話す(図々しくなく、押し付けがましくなく。)</p>	<p>一斉</p> <p>ビデオテープ、ビデオデッキ パワーポイント(松本)</p>

	<p>7 グループでマイクロクレジットをシミュレーション②を行う。(15分)</p>	<p>★馬場より、やり方を説明し、グループ内でシミュレーションを体験してもらう。          &lt;シミュレーションの目的&gt;          (1)職業(投資先)の紹介 (2)生活向上を実感してもらう          【マイクロクレジットシミュレーションのやり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 役割カードは4と同じ</li> <li>① 投資カード(牛、リキシャ、店の写真の下に「～すると結構稼げる」などの説明が書いてある)を配布する。</li> <li>② グループで話し合う。          → 自分の役割を考慮しながら、5000 タカ以内で投資カードを1人1枚選び、自分が収入を得る方法を考え出す。(5分程度)</li> <li>③ どのような方法を考えたか1～2グループに発表してもらう。(※席に戻らない)</li> <li>④ 1年後、自分の選んだ収入方法でどうなったか、カードをめくってカードを読んでもらう。</li> <li>⑤ 他の家族も全員カードをめくって各自読む。          ※ 最も収入のあった家族を紹介してもよい。</li> <li>⑥ ☆(馬場)より補足説明をする。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農村部での生活向上であり、富裕層になれるわけではない。</li> <li>・ きちんと返済できた人は次の年、より多くの融資(例 10000 タカ等)を受けられることができる。</li> <li>・ 多く収入を得たことで、さらに職業の選択肢が広がったり、店を持ったりすることができるようになった。</li> </ul> </li> </ul>	<p>役割カード 4枚×5グループ 投資カード 12枚×5グループ</p>
	<p>8 パワーポイントでルナさんがマイクロクレジットを借りて行ったことを具体的な数字を含めて確認する。(5分)</p>	<p>パワーポイントその3を観る。★説明 ☆パソコン操作</p>	<p>一斉 パワーポイント(松本)</p>
<p>まとめ</p>	<p>9 感想を聞く(2分)</p>	<p>ユヌスさんの理念「貧困をなくせば、人々は自立する」について意見を述べる。          ★ 特に、マイクロクレジットについて知らないと思われる高校生から、率直な意見を聞いてみる。</p>	<p>一斉</p>
	<p>9 終了(3分)</p>	<p>★ 本講座への参加に感謝を申しあげるとともに、アンケートの記入をお願いします。          ★☆挨拶をして講座を閉じる。          ○ アンケート記入について</p>	<p>アンケート用紙</p>

### バングラデシュ人民共和国


People's Republic of Bangladesh

人口: 1億4千万人  
 面積: 日本の4割  
 北海道とほぼ同じ  
 宗教: イスラム教90%  
 通貨: タカ(1タカ=約2円)

外務省ホームページより

### 2枚の写真を比べてみよう!



この写真を見比べて、  
 気がついたことはありますか?

### バングラデシュのデータ その1

貧困人口 <small>1日1\$以下で生活する人の割合 (2004年)</small>	41%
乳児死亡率 <small>(2007年)</small>	69人 / 千人あたり

↓

“アジア最貧国” と言われている


### バングラデシュのデータ その2

	男性	女性
識字率 <small>(2001年)</small>	50%	40%
平均寿命 <small>(2006年)</small>	61歳	62歳

\*農村部では、もっと低い数値だと推測される。  
 \*生物学的に女性は男性より6歳長く生きる。

### イスラムの価値体系

自主独立の個人の尊重




神の前では 男も女も平等 ⇒ 能力(体力)は 男の方が上 ⇒ 男性が女性を守らなければならない、いけいない、

人徳の持っている 知恵と徳性の 信者の存在 ⇒ 不必要な性的放縦による 社会的混乱を 避けなければならない ⇒ パルダ 結核

### パルダ

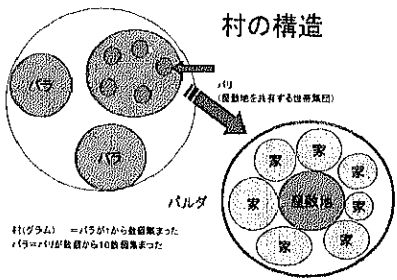
カーテンを意味する。 男性と女性を分離する。

女性は家の周辺しか出歩けない、  
 病気になることも  
 病院に行くことが  
 許されない場合がある。



パルダを守るか否かが、  
 女性自身の美徳や  
 家族の社会的地位を  
 あらわす。


### 村の構造



パルダ

村(グラム) = パリから数個集まった  
 パリ = パリが数個から10数個集まった

### バリ (屋敷地を共有する世帯集団)



### ダウリ(持参金)

結婚するときにお金を準備する夫の家に嫁ぎ持参

持参金をつくるために土地や家畜を売る。 ⇒ 貧困  
 借金をする。


↓

女性はやっかい者、疫病神扱い  
 嫁に行く年齢が高くなればなるほど、持参金も増加  
 持参金が少ないと、夫やその家族からのいじめにあう。  
 (ダウリ殺人)


### 農村女性を取り巻く環境

- ・ 貧困
- ・ 女性の弱い立場

パルダ  
 ダウリ  
 (持参金)



## ムハマド・ユヌスさん



- ・グラミン銀行創設者・総裁
- ・2006年  
ノーベル平和賞受賞
- ・先進国を含め世界40ヶ国で  
導入されている  
マイクロクレジットの  
考案者

貧困にあえく農村女性に  
お金を貸すことができますか？

\*日本・・・給食費、年金未納問題  
お金を持っているにもかかわらず、  
払わなければならないお金を払わない人たちがいる、

\*バングラデシュ・・・「アジア最貧国」

↓

お金を全く持っていない農村女性に  
お金を貸す勇気がありますか？

街の一般的な銀行員 ◎金利は適切である。

- ・担保を要求する。 → 貧しい人には
- ・貸す金額が大きい。 → お金を貸さず。

村の高利貸し ◎担保を要求しない、◎少額なお金を貸す。


- ・高い金利 月10%~20% → 借金をかたに
- 貧困層は融資の対象 → 貧困層を

### マイクロクレジットとは 信用

貧しい人を対象にした  
無担保少額融資

- ◎担保を要求しない、
- ◎少額なお金を貸す、
- ◎金利は適切である。  
(年12.7%)

目的は、貧困をなくすこと。



グラミン銀行総裁  
ムハマド・ユヌスさん

従来の貧困のイメージ

●能力がない、◎貸したお金を返却に使ってほしくない。

↓ ユヌスさん

貧困は外から規定され、人工的・社会的につくり出されたものである。

人は自分でも借金を考えられ、返済の計画を立てようとする能力と意欲を持っている。

貧しい人びとが信用に値しないのではなく、既存の銀行が人びとに値しないのである。

### マイクロクレジットの特徴その1

貧しい人しか融資を受けられない。


グラミン銀行のメンバーになる条件

1. 土地をまったくもっていない、
2. 0.5エーカー (約600坪、二反) 未満の耕作地しかもっていない、

\* 2~4エーカーの肥沃な土地をもっていれば、地主として生活できるといわれている。

### マイクロクレジットの特徴その2


対象は、女性が中心。



- 1 貧困のしわ寄せをいちばん受けているのが女性だから
- 2 女性の方が栄養や子どもの健康、教育にお金を使うから
- 3 投資をするのも女性の方が慎重だから

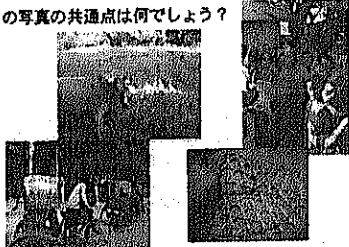
### マイクロクレジットの特徴その3

村に銀行員が出向く。



毎週決まった曜日の8:30~10:30に融資・返済などを行う。

この写真の共通点は何でしょう？



### マイクロクレジット

を使って農村女性で購入したもの

### マイクロクレジットゲーム

- ・あなたは農村女性です。(役割カードの人物)
- ・グループごとにマイクロクレジットでお金を借りて、生活をもっとよくしようと考えました。
- ・初めて借りるので、1人5000円まで融資が可能です。
- ・カードを1人1枚だけ選んで下さい、なぜそのカードを選んだか、理由も考えて下さい。(1グループ発表してもらいます)

1年後、あなたの生活はどのようになっているのでしょうか？

さあ、がんばって話し合ってください！

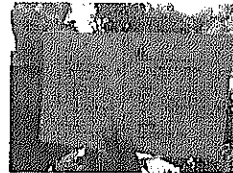
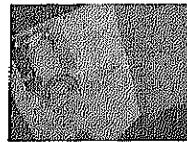
ノルシンディ県フィリスカンディ村  
シュケレ・アシャイ・

マイクロクレジットグループ



メンバーは  
19人

### 通帳



ルナさん 「全員、自分でサインができるようになったのよ」



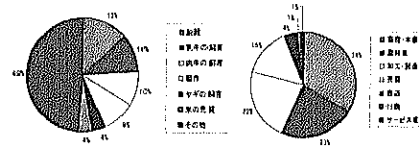
ルナさんは5,000tkを借りた。



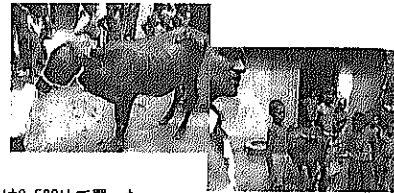
- ・ 利率：12.7%
- ・ 45週で返済

1週につき  
110tk返して  
15tk利息を払い  
25tk貯金する。

### グラミン銀行メンバーの生産活動



### ルナさんのお金の使い方

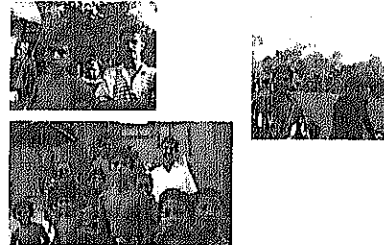


牛は3,500tkで買った。  
今後9,500tkで売る予定。  
ルナさんの手元には、6,000tkが残る計算だ。

「家族の一員として  
認められたことがうれしい」



「息子を助けられる  
自分がうれしい」



### 生活の向上+人間の尊厳



### 主な参考文献

- ・ 坪井ひろみ著「 Bangladesh 農村社会の現状とその背景(教師海外研修二次研修)」
- 「 Gramin 銀行を知っていますか」
- ・ 渡辺龍也著「南からの国際協力」
- ・ 大橋正明 / 村山真弓編著「 Bangladesh シュを知るための60章」



**タイトル(テーマ) 文化祭におけるバングラデシュ物産展の実践**

**～模擬店成功の手段としての開発教育～**

**氏名 張間 亮 青森県立青森商業高等学校**

**実践教科 世界史B・特別活動 時間数 7時間(準備1日・文化祭2日)**

**対象生徒・学年 2年次商業科(世界史は全学科6クラス)対象人数 40人(240人)**

(1)カリキュラム案

①実践の目的

1. 本校の状況

平成17年に百周年を迎え、本校のアイデンティティーを振り返る機会を得た。創立者の笹森儀助翁は本州最北の地に商業の専門教育の必要性を見出し、私財をなげうって本校の前身である補習夜学校を設立。翁は北方探検(千島列島)・南島探検(奄美諸島)を行った探検家であり、ロシアへの修学旅行を実施したという。校歌にも「本土の極北ところを占めて 思いは四海に遠くも馳せん」と歌われており、青森から世界に羽ばたく人材の育成という理念がうかがえる。その理念に則った教育の充実はこれまで十分とはいえなかったが、百周年を機に文化祭で市内在住の留学生による模擬店(アジア屋台村)を企画するなど、国際交流の機運が高まっている。

また、本校では生徒による店舗経営としてチャレンジショップが展開されている。生徒が開発した商品や県内農業・水産高校の商品を販売したり、商標登録を出願したりするなど、自分たちが学んだことを実際の商業活動で活かす試みである。昨年度は他校との連携をプロデュースし、ねぶた工作セットという大ヒット商品(東北経済産業局主催平成18年度スクール発明王アントレプレナーシップ大賞受賞)を開発するに至った。そうした活動のパイロット版として、2年次の文化祭では自分たちで地場産品や地元の銘菓などを仕入れて販売実践するチャレンジショップフェスタが行われている。

2. 対象生徒の状況

対象生徒は私が担任を受け持つクラスの生徒である。事前にとったアンケートでは、外国や国際交流への関心は2学年で最も低いクラスであった。また、国際貢献については無関心である生徒が多く、自分に出来ることは「無い」または「募金」であった。自分たちの可能性を考えてみることも無く、さっとアンケートに答えてしまう姿に自分たちのこととして捉えていない様子がありありと出ていた。

3. 実践の目的

学習指導要領の特別活動にあるように、国際社会を視野に入れた人間としての在り方生き方について自覚を深め、その一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的態度を身につけることを目的とする。そのために、以下のステップを設定する。

i 「知る」…対象国と青森の共通事項を知る

対象国と地元の間に関心・共有できるものがあると知ることで連帯感を醸成し、国際社会の一員としての自覚を持つ。今回は、人や物の流れとしての関連性ではなく、人として同様な感覚であることに着

目する。

ii 「考える」…対象国を通して自分自身の在り方生き方について考える

発展途上国と先進国における生活の様子の比較から、現在の自分の在り方や生き方に気づき、どのようにありたいかを考える。特に、フォトシネマの制作を通して、バングラデシュで撮影した写真と向き合い、自分たちを写す鏡として着目する。

iii 「行動する」…国際貢献は自分にできることをすることと理解し行動する

販売実践を通して社会参加し、フェアトレード商品などを扱う中で国際貢献に関わる経験を積む。その中で、してあげられることをするという上下関係でなく、パートナーとして共存していることに気づき、自主的、実践的態度を身につける。

模擬店(チャレンジショップフェスタ)は店舗経営の一環として行われるので、その運営や結果に対して責任を持ち、より多くの収益を出すことが前提である。その上で、販売活動の達成感から自分自身の可能性をとらえて人間的成長をはかる(具体的な展望としては継続的に国際貢献に関心が持てるようになる)ことを「模擬店成功」とする。そこで、自分たちが地元で考えていること、地道に培ってきた能力などを発揮して世界とつながる文化祭になることを目指し、学級テーマ' Think locally. Act globally. 'を掲げた。

## ②授業の構成案

年度当初のLHR計画では文化祭の準備のために2時間のみが割り当てられていた。そのため、私が担当する世界史Bの主題学習と関連付け、事前に国際交流・国際貢献への関心を喚起する授業を展開する。

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
第1回(世界史B) 「カカオ豆貿易ゲーム」 貿易での途上国の立場と必要な援助を体感する。	・用意したストーリーに沿って貿易ゲームを展開する。 ・先進国と途上国の関係、援助のあり方について感想を持つ。	・貿易ゲーム道具一式
第2回(世界史B) 「世界が100人の村だったら」 視聴 途上国の実際を知る。	・ビデオを見て、ウェストピッカーとして生計を立てるマニカの生活を知る。	・「世界が100人の村だったら」フジテレビ
第3回(世界史B) 「振り返り①」 自分たちに何が出来るか考える。	・貿易ゲームでの批判から、途上国で求められていることを知る。 ・振り返りシートに記入し、自分たちにできることを話し合う。	・『ぼくの夢は学校に行くこと』 今西乃子 ・アンケート結果 ・振り返りシート
第4回(世界史B) 「バングラボックス」 現地の生活を写真やモノから読み取る。	・グループに分け、フォトランゲージ、モノランゲージ ・グループごとに発表して情報を共有する	・バングラボックス(開発教育協会) ・記入用紙
※夏休み課題 「エッセイコンテスト」 考えたことを文章として表現し、考えを深める。	・「世界みんなが幸せになるために～私が考えること、できること～」について800字程度でまとめる	・原稿用紙 ・過年度入賞作品

※SHR 「模擬株式会社設立」 文化祭の概要を知り、具体像と責任を持つ。	・バングラデシュ物産展概要説明 ・一人 500 円の出資呼びかけ ・保護者への説明文配布	・保護者宛文章 ・模擬株券
第5回(LHR) 「青森もバングラも同じだ」 共感的姿勢の獲得。	・連想ゲーム ・こぎん刺しとノクシカタ ・ケーススタディ「青商の成功例」 ・フォトシネマ	・最低賃金表など ・こぎん刺しノクシカタ ・ねぶた工作セット ・フォトシネマDVD
第6回(LHR) 「チーム編成」 役割の明確化と模擬店の準備開始。	・バングラデシュ、フェアトレード、ストリートチルドレンの3チームを編成(それぞれのチーム内を販売・広報・フォトシネマに編成)	・模造紙 ・フォトシネマ制作ソフト
文化祭① 「バングラデシュ」 買い付けた物産の販売とバ国の紹介、DVD上映。	・ガムチャ(手ぬぐい)などの販売 ・バングラデシュのデータを壁新聞で紹介 ・生徒制作フォトシネマ上映	・ガムチャなど ・壁新聞 ・フォトシネマDVD ・プロジェクター
文化祭② 「フェアトレード」 NGOから仕入れたフェアトレード商品販売など。	・現地NGOシャプラニールより仕入れたフェアトレード商品の販売 ・フェアトレード紹介パネル展示 ・生徒制作フォトシネマ上映	・フェアトレード商品 ・パネル、壁新聞 ・ちらし ・フォトシネマDVD
文化祭③ 「ストリートチルドレン」 子供たちのパネル展示と支援NGO商品販売。	・現地NGOエクマツラより仕入れた子供手形つきTシャツ等販売 ・「ダッカのストリートチルドレン100人の子供たち」パネル展示など	・手形Tシャツ、リストバンド ・ストチル製作古紙袋 ・パネル(シャプラニール) ・フォトシネマDVD
※文化祭後片付け時 「振り返り②」 文化祭の感想と自分たちの行動を振り返る。	・振り返りシートに沿って文化祭の感想を記入 ・出資金の返還と収益の使い道について考える	・振り返りシート
第7回(LHR) 「サイクロン被害と私達」 地元の自然災害との比較と自らの可能性発見。	・修学旅行での震災教育と関連させ、青森とバングラの災害を比較 ・文化祭で関わったNGOの活動に自分たちが関わったことを知る	・サイクロン被害報道 ・NGO活動報告書 ・振り返りシート ・国際理解アンケート

## (2) 授業の詳細

### 第1回(世界史B)「カカオ豆貿易ゲーム」

事前に国際理解アンケートを実施。その結果から、国際貢献や国際協力は必要だと思うが、あまりにも大きなことで自分には無関係という雰囲気を感じた。そこで、まずは知ることの重要性に焦点を当て、世界史を学ぶ意欲を喚起する導入部主題学習として展開。

このアクティビティは事前研修で講義していただいた野澤先生(青森県横浜町立横浜中学校)の「カカ

「オ豆貿易ゲーム」をモデルとした(下記HP参照)。

<http://www.jica.go.jp/classroom/kyouzaishu/pdf/tebiki02-02.pdf#search='JICA%20ガーナへ行こう'>

### 1. グループ分けと各国の資源

A	B	C	D	E	F
経済大国	先進国	先発途上国	後発途上国	最貧国	国際機関
チョコ生産国	チョコ生産国	カカオ生産国	カカオ生産国	カカオ生産国	国連/商社
8人	6人	6人	6人	10人	4人
はさみ	はさみ	左用はさみ	小はさみ	カカオ型紙	通貨用紙
はさみ	はさみ	左用はさみ	小はさみ	カカオ型紙	輪ゴム
カッター・台	チョコ型紙	カカオ型紙	カカオ型紙	カカオ型紙	※以下 援助物資
カッター・台	チョコ型紙	カカオ型紙	カカオ型紙	カカオ型紙	
チョコ型紙	ペン	クレヨン	ペン	ペン	カッター
チョコ型紙	ペン	クレヨン	ペン	ペン	セロテープ
クレヨン	ペン	ペン	ペン	ペン	はさみ
クレヨン	ペン	ペン	ペン	ペン	はさみ
クレヨン	インターネットカード			アピールカード	ミニカカオ型紙
クレヨン					
追加アイテム					
	ミニカカオ型紙	援助カード (セロテープ)	援助カード (カッター)	援助カード (はさみ)	
				援助カード (はさみ)	

### 2. ルール

1番儲けたチームを勝ちとする。(商業高校生としての才覚を存分に発揮して欲しい。)

与えられた道具以外は使用してはならない。

チョコ生産国は100ハリマ融資。(後で返してもらおう。) ※ハリマ:通貨単位

カカオ生産国は型のように切り取り、色を塗ったら出荷できる。

チョコ生産国は商社からカカオを買い取り、型通りきって塗ったら出荷できる。

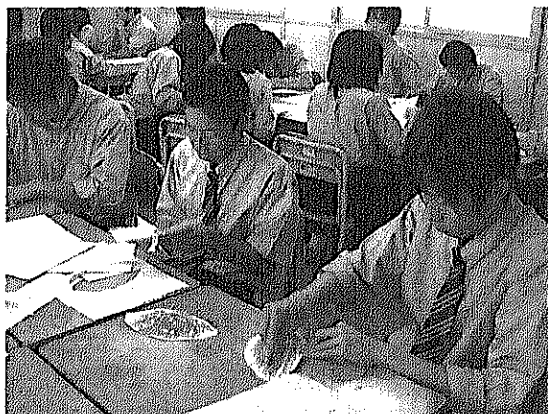
カカオは、商社が6個を10ハリマで買い取る。

チョコは、商社が2個を10ハリマで買い取る。  
 商社は、チョコ生産国に6個20ハリマでカカオを売る。  
 価格は、時間の経過と状況により変動する。  
 指示のあるまで各国の交流は禁止。  
 与えられたカードは、指示のあるときに使える。  
 商品だけを売り、輸出は必ず商社を通すこと。  
 カカオやチョコが出来ない場合は、買取を拒否することもある。  
 時間の経過ごとに連絡が入るので、その時は作業を中止すること。  
 ルールを破った国には経済制裁が加えられる。

### 3. ストーリー

- 1 グループ分け:時間が無いので座席ごと
- 2 大統領をじゃんけんで決める。
- 3 国連総会を開き、道具を渡し、ルールを伝える。
- 4 資源を配布・作業開始
- 5 3分 Eへの助言「道具が無ければどうするの?」(途上国の労働条件)
- 6 6分 先進国へ途上国とのつながりを促す「原料がないと作れないね」  
(国際分業)
- 7 9分 アピールカード実行:Eの状況を大統領が窮状を訴える  
→各国から使わなそうな道具の提供募る(資源の再配分)
- 8 12分 援助カード実行(情報の有無による援助の効果)  
→適切な援助(E)=情報有り(はさみ)  
→不適切な援助(C・D)=情報無し  
セロテープ:使いようがない道具、カッター:台が無いので使用禁止
- 9 15分 状況観察
- 10 18分 インターネットカード(ブームの創出)  
「Bは自国ミニカカオ・ミニチョコを開発。  
インターネットによりミニブームが到来。  
ミニチョコは2個20ハリマで買う。(通常の倍の価格)  
ミニチョコはミニカカオからしか製造できない。  
ミニカカオは6個20ハリマで買い、30ハリマで売る。」  
→ミニチョコ型紙の配布・ミニカカオ型紙の依頼国選定(人口の魅力)
- 11 21分 状況観察

- |    |     |   |           |
|----|-----|---|-----------|
| 12 | 24分 | 通常カカオ暴落(需給バランス)   | 60個=10ハリマ |
|    |     | 「世界史上では、1兆倍のインフレが起こった。」   |           |
| 13 | 27分 | ミニカカオ暴落(ブームの危険性)  | 取引中止      |
|    |     | 「ミニカカオに安全性に問題があり、取引中止。(遺伝子組み換え食品)<br>実際に日本のナタデココブームがフィリピンの産業に影響を与えた。」 |           |
| 14 | 30分 | 地球温暖化による異常気象によるカカオ型紙回収(環境問題)  |           |
| 15 | 終了  | これ以上続けられるか数名に尋ねてから終了(次時へのつながり)  |           |
| 16 |     | 集計作業と後片付け(ごみ問題)   |           |
|    |     | 「出たごみが産業廃棄物であり、これをそのままにすればごみ問題。」                                      |           |
| 17 |     | 各国の収益発表と国力(資源の内容とモデル国)紹介  |           |



## 第2回(世界史B)「世界が100人の村だったら(フジテレビ)」視聴

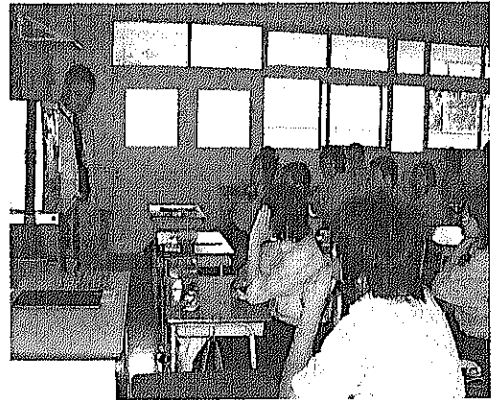
(参照 [http://www.fujitv.co.jp/fujitv/news/pub\\_2007/07-167.html](http://www.fujitv.co.jp/fujitv/news/pub_2007/07-167.html))

アクティビティから生徒の実感を引き出すためには1時間(50分)の授業では足りないし、次の授業まで間が空くため前時の印象を保持しながら継続することは難しい。そこで、本来貿易ゲームはあと30分続くがこの状況で続けられるのかと問いかけ、生徒に行き詰まり間を残して終わっている。

生徒からは「もう出来ない」「まだやれる」と両方の意見があったが、ゲームとは違う実際を知り、自分のこと

として想像することを目的に標記番組を視聴させた。現実には「もう出来ない」と言っていないし、「まだやれる」ということはどのような現実を乗り越えることなのか。フィリピンでウェストピッカーとして家族を支える少女マニカの姿から考えさせる。

視聴後に君たちはマニカの立場だったら「もう出来ない」「まだやれる」と言えるのかと問いかけた。生徒は押し黙っており、考えるきっかけになったようである。最後に、番組中に日本から訪れた女優がマニカにとって何日かぶりの食事を分けてもらい言葉に詰まる場面に触れた。君たちなら何と言うか。私なら「おいしい」と直接伝えたい。だから、本研修で自身の呼び名を「モジャ」（ベンガル語でおいしいの意）にしたことを伝えた。以後、学校でも「モジャ」と呼ばれるようになるが、そう呼ばれている間はマニカのことも覚えていてくれるだろう。



### 第3回(世界史B)「振り返り①」

#### 1. 貿易ゲームの批判から考える

貿易ゲームのときに使用した紙の残骸を見て、「この紙をあげたら良いのに！」と言った生徒がいた。この発言を取り上げて、私たちは何が出来るのか、何が求められているのか、考えた上で振り返らせる。

そこで、『ぼくの夢は学校に行くこと バングラデシュ～紅茶畑の軒下教室から～』（文・今西乃子、写真・浜田一男）の「はじめに」の文章を配布。そこには、以下のようなことが書かれている。

- ・ 国際支援とはどのようなものか。
  - ・ テレビポーターからアジアの貧しい国の子供たちが「今、一番したいことは何ですか？」とたずねられていた。
  - ・ 食べ物や衣服が欲しいと答えると予想したが、ほとんどが「学校へ行ってみたい」だった。
  - ・ 日本とは違う答えに疑問が膨らむが、実際に行ってみると学校とはいえないような場所で勉強する彼らを見て気がついた。
  - ・ 勉強することは希望を持つことである。
  - ・ 物を送ることが国際支援だと思っていたが、子供たちが希望をもてるような支援活動に参加したい。
- マニカも学校に行きたがっていたことに言及し、物を送ることだけが国際支援ではないことを指摘した。

#### 2. 振り返りシート記入(以下、生徒の記入例)

##### ①貿易ゲームの感想

- ・楽しかった(このような形式は初めてだった、現実感があった)
- ・楽しなかった
- ・途上国が原料を生産しないと先進国も作れない
- ・途上国はずっと働いていたが、先進国は楽だった(働く量の差が激しい)
- ・売れ残った時の気持ちがわかった
- ・世界は平等ではないと気づいた(スタートに差があるゲームは初めてだ)
- ・人口の大きいところは可能性がある
- ・ブームに振り回されて大変だった
- ・途上国の人はいくら頑張っても先進国よりは稼げないのではないか

- ・発展途上国でも先進国に勝てる方法を考えたい
- ・商社は先進国にあわせて動いていると感じた
- ・世界は先進国にしか権限がなく、途上国は従うしかない
- ・公平でないのでイライラしたが、これが戦争になるのかもしれない
- ・頑張って大量生産したが、残ったごみの処理が大変だった

など

## ②援助について気づいたこと

- ・状況を知らないと援助も意味が無い(多数)
- ・援助という協力でお互いに楽になるし、なければお互いに困る
- ・先進国からの援助の重要性

など

## ③ビデオを見ての感想・気づき

- ・このような子供がいることを初めて知ったし、もっと知るべきだ
- ・自分たちがどれだけ良い暮らしをして、物を粗末にしているか
- ・フィリピンに生まれなくて良かった
- ・出来ることなら助けてあげたい
- ・自分たちは幸せだ(自分ならできない)
- ・どうしてこうなったのか理解できないが、必死に生きているということはわかった
- ・ゲームは楽しかったが、本当ならやばい
- ・お金が無ければどんなことでもしなければならぬ
- ・やらされているのではなく、やらなければいけないことがかわいそうだった

など

## ④私たちにできる行動は何でしょうか。

- ・募金 ・ボランティア ・一日一善 ・物を大切に使う ・何も出来ない
- ・現状を良く知る ・自分のことをよく知る

など

## 3. 私たちにできること

6 クラス分の国際理解アンケートの集計結果を配布。国際理解に現状を数字で確認。「私たちに出来ることは募金」という答えが多かった。振り返りシートでも募金が多い。そこで、誕生日ラインから無作為の班をつくり、振り返りシートの内容を共有させ、その上で自分たちに出来ることを話し合った。最後に、フェアトレードという国際貢献の形があることを紹介。本校で学ぶ商業を活かして何かできる可能性を秘めていることを指摘した。

## 第4回(世界史B)「バングラボックス」

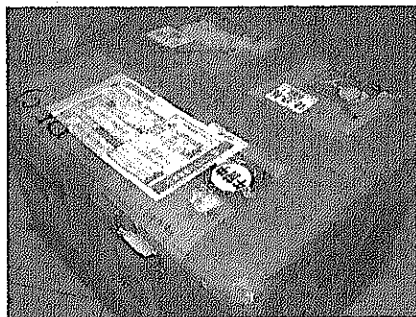
これまでの学習から生徒たちは知ることの重要性を認識し始めている。そこで、実際に知るための技能を身につける授業へつなげる。これまで世界史の授業は講義形式で知識偏重の傾向にあった。評価観点に「資料活用の技能・表現」があるものの、生徒が自ら考えて多様な意見を表現する機会はあまりなかった。そこで、開発教育協会から「バングラデッシュボックス」を取り寄せて活用する。フォトランゲージ・モノランゲージの手法を通して知るスキルを高め、歴史に対する関心や世界史学習への意欲を育てる。



## 1. 「送られてきたダンボール」

～フォト・モノランゲージの説明～

バングラデシュボックスを紹介する前に、それを梱包していたダンボールを見せる。生徒は何回も使いまわされたそれを見て、物を大切に扱うメッセージを受け取った。このように物からメッセージが読み取れることを説明し、貴重な資料を大切に扱うように指示。生徒たちは、バングラデシュボックスから自分が気になる写真を選ぶ。



## 2. まずは自分で。続いてグループで。



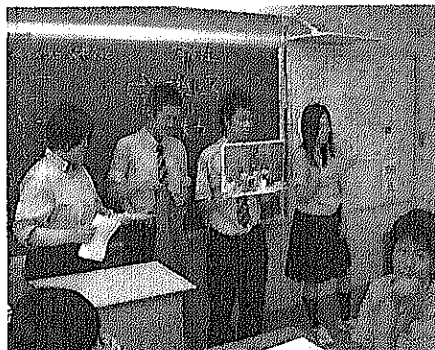
シートに則って、写真を選んだ理由、写真から気づいたこと、分からなかったことを記入。続いて、協働することの意義と注意点を明示し、座席ごとにグループを形成。それぞれの写真についてさらに読み取り、分からなかったことを班で推測する。

進行状況を見計らい、班にバングラデシュの生活物品を配布。同様に物から情報を読み取り、そこにあるメッセージを読み取る。

## 3. 各班発表

写真1つと物について読み取った情報とそこにあるメッセージを発表する。衣類は実際に着て発表する。

発表後に写真や物の説明を伝え、読み取った情報の誤差を修正した。



## 4. 生徒の感想(以下、生徒の記入例)

- ・鉄器などの作りは雑なのに布などの生地模様に関してはすごくこだわっている
- ・子供たちが上半身裸なことから気候や経済状況がわかることに気づいた
- ・日本人の価値観だけで見てもわからないものがある
- ・同じ写真でも人が違えば見方も変わる
- ・世界にはわからないことが沢山ある
- ・宗教が生活にかかわっている
- ・一番分かりにくいものだったのでみんなにも見てもらいたくて発表した
- ・建物がボロボロなので古いものを大切に使っている
- ・発表が上手な人はほんとに上手で、感性が高い人が色々な発見をしていた
- ・世界には貧富の差がある





## ※ 夏休み課題「世界 みんなが幸せになるために～私が考えること、できること～」

これまで行ってきたことを基に考えたことを文章として表現し、考えを深めることを目的にJICAのエッセイコンテストに応募。

その中で「家の手伝いばかりしてかわいそう」という文章があった。そのことで学校に行けないからということではないようだ。「自分にはできない」と続く。単にこき使われているという印象のようだが、家族の役に立つことは立派なことではないだろうか。私自身に幸せの根源を問いかけるものであり、バングラデシュ帰国後に最貧国の人々の幸せそうな笑顔を紹介するフォトシネマ「バングラスマイル」を作るきっかけとなった。

また、数人の生徒の希望により過年度入賞作品をプリントアウトして見せた。その中の「ミスユニバースになって国際貢献を訴えたい」という中学生の作品を読んだ生徒は、進路で悩んでいたが歌うことをあきらめないう気持ちになり、後に作るフォトシネマの中に反映される(「わたしにできること」は「歌い続けること」)。

## ※SHR「模擬株式会社設立」

生徒の手垢のついた出資金を現地通貨に換金して仕入れたいと考えていた。そのため、夏休み前に生徒から出資金を集めなければならず、あわただしく保護者への文章を配布して理解と協力を求めた。株式会社の話は世界史にも出てくるものであり、商業高校なのだからもっと本格的に学べるのが沢山あったのだが、時間がなくSHRでの実施となった。

また、現地でNGOシャブラニール駐在員の小嶋さんからもご指摘いただいたのだが、もっと実際の貿易の手続きやフェアトレードにしくみの実際などを生徒たちに学ばせる機会にすることができたはずだった。私自身の知識経験不足もあり、そこまで考えがいたらなかったことは次回の課題としたい。

## 第5回(LHR)「青森もバングラも同じだ！(Think locally.)」

### 1. 連想ゲーム「青森といえば、バングラといえば」

- ①生徒を2つに分け、青森またはバングラデシュのイメージをシートに3つ書く。  
(後で言い当てられる材料になることは伏せておく。)
- ②それぞれを3つに分け(計6班)、集まって先ほど書いたものを見せ合う。  
(3つ書けなかった者は、他を見て書き足す。)
- ③先ほど書いたものとは逆(青森ならバングラ)のイメージを付箋紙に書き出す。  
(ブレンストーミング)
- ④台紙に貼り付けていき、班としてイメージを共有し、班として1つの意見を定める。  
(言い当てる材料になることは伏せておく。)

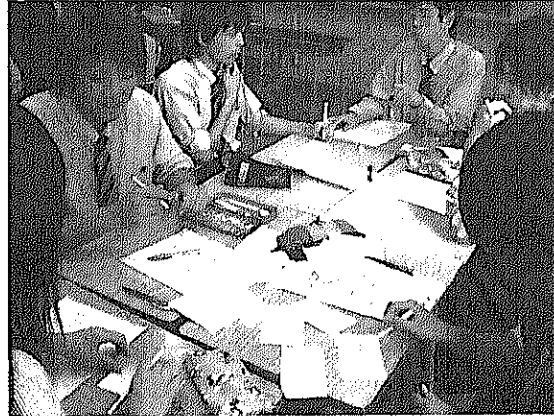
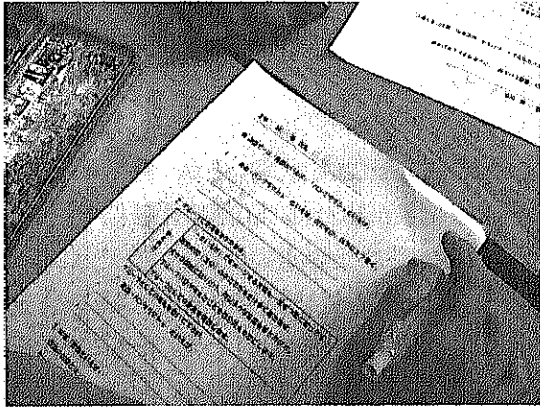
⑤ゲームの内容(多くの人と共感する意見を決めた班の勝ち)を発表し、④で決めた意見が①で書いた何人と同じ意見となったかを競う。

※実際に出た意見

・「青森といえば」…りんご(20人)・雪(1人)・ねぶた(18人)

・「バングラといえば」…ストリートチルドレン(5人)・暑い(6人)・貧困(12人)

⑥フィードバックとして、地元の方が良くわかっているので当てやすく、自分たちのことなら良くわかることを指摘(Think locally)。また、同じようなことを考えている人が多くいることを指摘(共感の可能性示唆)。



## 2. 「青森とバングラの共通点を探そう」

①「両者に共通点はないか？」との間に「雪・暑さと気候が特徴的」という返答。

→バングラデシュの新聞から洪水報道の写真を見せ実態を把握させる。

「でも、青森の雪だってすごいよな」との呼びかけに生徒は頷いていた。

②「他に共通点はないか？」→「ない」→「君たちはバングラデシュと同じだな！」

→一人当たりの県民所得ランキング(2004年度:内閣府「平成16年度県民経済計算」45位)と地域別最低賃金状況(平成18年度:厚生労働省HP)を配布

「バングラデシュの人も外国のNGOの人から聞いて、初めて自分たちが貧困だと気づくらしい」との説明に「同じだ」「初めて知った」という感想。

③「青森のねぶたというのは地元の文化だが、そういう伝統文化にも共通点がある」

→こぎん刺しとノクシカタの実物を見せて説明(研修報告書を参照：[http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/pdf/kenshu\\_19\\_ban\\_harima.pdf](http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/pdf/kenshu_19_ban_harima.pdf))

「国は違っても母の想いは同じように感じませんか？」に一同同意している様子。

